

湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く国スポーツ

第79回国民スポーツ大会

2025



フェンシング競技会

開催日 2025年9月29日(月)~10月2日(木)
会場 ウカルちゃんアリーナ
主催



公益財団法人日本スポーツ協会

文部科学省 滋賀県

公益社団法人日本フェンシング協会

大津市



第79回国民スポーツ大会

大会愛称

わたSHIGA輝く国スポ

選手、ボランティアをはじめ、滋賀県で開催するこの大会に関わるすべての人が、様々な場面で主役として光り輝き、夢や感動、連帯感を共有できる大会を目指します。

大会スローガン

湖国の感動 未来へつなぐ

「琵琶湖」を擁する湖国滋賀で生まれた感動が、この大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれるようにとの願いが込められています。

大会マスコットキャラクター

琵琶湖に生息する固有種「ビワコオオナマズ」をモチーフにしたキャラクターです。



■ キャッフィー

どんくさいわりにチャレンジ精神が旺盛で何事にも一生懸命。子ども好きで人を楽しませることが大好きです。

■ チャッフィー

「キャッフィー」の幼なじみで、昔から仲の良い友達です。泳ぐことは得意ですが、陸のスポーツは少し苦手で「キャッフィー」に教えてもらっています。

「キャッフィー」と「チャッフィー」を合わせて「キャッチ」。人の心をキャッチする、という意味が込められています。

「デモンストレーションスポーツ」とは

通称「デモスポ」と呼ばれ、国民スポーツ大会の実施力テゴリーのひとつです。県内各地で26競技が実施され、年齢・性別・障害のあるなしを問わず、誰もが参加することができます。「する」「みる」「支える」といった様々な関わり方で交流の輪を広げるとともに、一緒に国民スポーツ大会を楽しみましょう！

目 次

あいさつ

公益財団法人日本スポーツ協会 会長 遠藤 利明	4
文部科学大臣 あべ 俊子	5
公益社団法人日本フェンシング協会 会長 千田 健一	6

歓迎のことば

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会会長 滋賀県知事 三日月 大造	7
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会会長 大津市長 佐藤 健司	8
滋賀県フェンシング協会 会長 渡辺 一生	9

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程	10
---------------------	----

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程	11
---------------------	----

大会役員	12
------	----

競技会役員	16
-------	----

競技役員	18
------	----

競技補助員・競技会係員・競技会補助員	20
--------------------	----

総則	21
----	----

実施要項	40
------	----

表彰式次第	45
-------	----

競技日程	46
------	----

アップ場・練習会場開設時間	51
---------------	----

第79回国民スポーツ大会 フェンシング競技について	52
---------------------------	----

フェンシング競技組合せ表（フルーレ）	55
--------------------	----

フェンシング競技組合せ表（エペ）	61
------------------	----

フェンシング競技組合せ表（サーブル）	63
--------------------	----

フェンシング用語	66
----------	----

審判員のジェスチャーと号令	68
---------------	----

都道府県別参加人数一覧表	70
--------------	----

参加監督・選手一覧表	71
------------	----

総合成績決定方法・表彰	73
-------------	----

栄光の記録 国民体育大会・国民スポーツ大会年次別成績一覧	74
------------------------------	----

関係機関 連絡先一覧	76
------------	----

競技会場図	77
-------	----

競技会場案内図	82
---------	----

敷 地 内 全 面 禁 煙

ただし、望まない受動喫煙防止のため喫煙所を設置しています。

喫煙される方は、指定された喫煙所をご利用ください。

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会

あいさつ



公益財団法人日本スポーツ協会

会長 遠藤 利明

約 400 万年の歴史を持つ日本最大で最古の湖である琵琶湖を中心に雄大な風景が広がり、古くから日本の文化や経済の先進地として栄えたここ滋賀県において、第 79 回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りです。

大会愛称である「わた SHIGA 輝く国スポ」のとおり、大会に関わる全ての方々が主役となり、光り輝くことができる大会となることを願っております。

スポーツは、目標に向かっての努力と達成感、そして観戦する人をワクワクさせ、楽しく、心を動かすものであるからこそ、人々を、社会を元気にする力を持ちます。

本年 6 月、14 年ぶりに改正されたスポーツ基本法では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」に加え、「集まる」「つながる」として明示されています。

厳しい予選を勝ち抜き、郷土の代表として集まったアスリートの皆様には、フェアプレーを通じて友情を深め、つながり、スポーツが楽しいものであることを体現いただき、開催地の皆様とも交流を深め、全国にスポーツの力と滋賀県の魅力を発信する伝道者になっていただければ幸いです。

さて、昭和 21(1946)年にスタートした「国民体育大会」は、昨年から「国民スポーツ大会」へ名称を変えて新たなスタートを切るなど、大きな変革期にあります。

日本スポーツ協会では、本年 3 月、「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」から示された「提言」に基づき、国民の皆様がこれまで以上にワクワクし持続可能な魅力ある大会となるよう、様々な改革に取組んでいくこととしています。

結びに、本大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元滋賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あ い さ つ

文 部 科 学 大 臣

あ べ 俊 子

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ滋賀県において第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

滋賀県は、日本最大の湖である「琵琶湖」、四季折々の表情を見せる「伊吹山」等、美しく彩りある豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「比叡山延暦寺」や国宝「彦根城」等、歴史と文化が息づく県です。

昭和56年のびわこ国体以来44年ぶりの滋賀県での開催となり、「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、本大会は、様々な場面で環境に配慮した取組を行い、スポーツの力を活用し、持続可能な社会づくりに貢献していくすばらしい大会となっています。「わた SHIGA 輝く国スポ」が、国民に夢と感動、連帯感を共有できる大会、また、開催地である滋賀県の活性化に資する大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さん、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や滋賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、パリオリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「わた SHIGA 輝く国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元滋賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

令和7年7月31日

あいさつ



公益社団法人日本フェンシング協会

会長 千田 健一

豊かな歴史と文化、自然に溢れ、湖の恵み豊かな滋賀県において、わた SHIGA 輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会 フェンシング競技会」が盛大に開催されること、日本フェンシング協会を代表しお慶び申し上げます。

この大会は、これまで国民体育大会としてスポーツを通じて「人・地域・社会」を繋ぐスポーツ文化の普及発展に大きな役割を果たしてきました。特にメジャー競技を目指すフェンシング競技においては、大会を通じて地域ごとのフェンシング育成環境の充実を図るとともに、全国にフェンサーの輪を広げ、競技力向上と更なるレベルアップが図られてきました。そして、各県を代表する選手として、郷土の期待を背負っての熱い戦いは、フェンシングの力で各県県民に対して勇気と元気を届けてくれたことでしょう。そして昨年から国民スポーツ大会に生まれ変わり2年目の大会となります。名称は変わってもフェンシングを通じてのスポーツ文化の継承と発展という目指すべきところは変わりません。新たな大会が新たな社会の未来に貢献できる素晴らしい大会に生まれ変わることを大いに期待するものであります。

昨年開催されたパリオリンピックにおける日本代表選手たちの素晴らしい活躍により、フェンシングに対する認知度も上がり、もはや日本の競技力は世界のトップに君臨する実力と世界各国からも高い評価をいただいております。そして、多くのジュニア選手がフェンシングの道を歩み始めてくれたことに、大変嬉しく思っております。未来の日本フェンシング界を担う子供たちのフェンシングに対する夢と期待を裏切らないためにも、今大会を通じて世界のトップクラスの技と力による熱い戦いを大いに期待するとともに、観衆及び応援の皆様には、是非フェンシングの魅力をご堪能いただければ幸いです。

結びに今大会開催にあたり、長期間にわたり準備にご労苦をいただきました滋賀県・大津市、そして滋賀県フェンシング協会の皆様、ご尽力いただきました関係するすべての皆様に対して心から感謝申し上げますとともに、この大会の成功と滋賀県の発展並びに選手諸君のご健闘をご祈念申し上げごあいさつといたします。



歓迎のことば

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会会長

滋賀県知事 三日月 大造

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から選手・役員の皆様をはじめ多くの方々をお迎えし、ここ滋賀県において「わた SHIGA 輝く国スポ」を開催できることは、この上ない喜びであり、県民を代表して心から歓迎申し上げます。

また、本大会の開催にあたり多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

本大会は、「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれることを目指しています。

大会における共生社会の実現に向けた取組や環境配慮の実践、さらには心のこもったおもてなしなど、長年培ってきた滋賀ならではの視点により、みんなが輝く大会にしてまいりたいと考えております。

本県は、我が国最大の湖である琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史を有するとともに、先人が人と人、人と自然のつながりの中で育んできた文化が今も脈々と息づいています。是非、滋賀のリズムに触れていただき、心のリズムを整え、本県での滞在を楽しんでください。

選手の皆様方におかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮されますとともに、地域をこえた交流に触れ、本大会を思い出に残る素晴らしい大会にしていただきたいと存じます。

結びに、本大会に関わる皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会会長

大津市長 佐藤 健司

わたSHIGA輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会 フェンシング競技会」が、大津市にて盛大に開催できることを大変嬉しく思います。全国各地より参加される選手・監督、大会関係者の皆様をはじめ、大津市にお越しいただく方々を、市民を代表して心から歓迎申し上げます。

わたSHIGA輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会」は、昭和56年の「びわこ国体」以来、44年ぶりに滋賀県での開催となります。大津市では、選手の皆様が最大のパフォーマンスを発揮できるように会場の準備を整えるとともに、応援のぼり旗などの会場装飾づくりや地元食材を盛り込んだ「OTSU国スポこだわり弁当」の献立づくり、市内にちりばめられた歓迎装飾など大津市民をあげたおもてなしでお迎えできるように取り組んでまいりました。

また、各会場では、ボランティアによる大津の銘菓などのふるまいのほか、特に子どもたちが様々なスポーツに興味を持つてもらえるように、選手の皆様の競技を観戦することに加え、競技体験などの企画も準備いたしました。スポーツの素晴らしさを体現・体感し、皆様の記憶に残るような大会となりますことを、心より願っております。

さて、琵琶湖の恵みと比良・比叡の山々の緑に囲まれた大津市は、紫式部ゆかりの地である石山寺や三井寺、世界遺産比叡山延暦寺などの自然と歴史が調和した、豊かな文化が息づく地域です。今年は琵琶湖疏水施設が国宝・重要文化財に、坂本城跡が国史跡にそれぞれ指定されるなど、改めてその魅力が注目されています。また、近江牛や文化庁の「100年フード」の認定を受けた大津のうなぎなどの滋賀県・大津市の特産品や郷土料理に加え、琵琶湖でのクルーズなどのアクティビティもお楽しみください。

結びに、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘を祈念申し上げまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

滋賀県フェンシング協会

会長 渡辺 一生

わた SHIGA 輝く国スポ「第 79 回国民スポーツ大会 フェンシング競技会」の開催にあたり、全国各地より厳しい戦いを勝ち抜き、本大会への出場を果たされた選手・監督をはじめ大会関係者の皆さま、ようこそ滋賀県大津市にお越しくださいました。

さて、昨年開催された第 33 回パリオリンピック競技大会では金メダル 2 個、銀メダル 1 個、銅メダル 2 個を獲得するという快挙を成し遂げ、日本選手の強さと存在感を世界に示す事が出来ました。また、世界選手権やワールドカップなど様々な国際大会でも日本選手の活躍は目覚ましいものがあり、フェンシング競技への興味関心は益々高くなっています。私もフェンシングに関わる一人として大変喜ばしく光栄に感じております。

今大会は「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ開催されます。是非、日本トップクラスの技と力による熱い戦いを繰り広げ、日頃鍛えられた成果を遺憾なく発揮し、郷里の方々の期待に応える熱戦が繰り広げられ、その感動が未来へつながることを大いに期待しております。

また、全国各地より選手が一堂に会する絶好の機会でもあります。お互いに切磋琢磨し、交流を深め、今大会を通して築かれる友情や新たな挑戦が今後の成長につながり、競技人生におけるかけがえのないページとして、いつまでも心に残る素晴らしい大会となる事を願っております。

結びに、本大会の開催にあたり多大なるご尽力を賜りました公益社団法人日本フェンシング協会、滋賀県、大津市の関係各位をはじめ、大会役員・スタッフのご苦労に心より感謝申し上げますとともに、本大会のご成功と選手の皆さまのご健闘・ご活躍を祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。



天皇杯

皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合、当該都道府県で共有する。

第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定
昭和45年1月22日一部改定
昭和48年7月10日一部改定
昭和54年5月9日一部改定
平成17年6月16日一部改定
平成22年3月17日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定
令和6年1月1日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 責任をもって保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。
- (3) 優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。
- (4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日(平成23年4月1日)から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定

大 会 役 員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

名 誉 会 長	あ べ 俊 子			
会 長	遠 藤 利 明			
副 会 長	益 子 直 美	田 中 不 二 夫	三 宮 恵 利 子	森 岡 裕 策
	室 伏 広 治	三 日 月 大 造	河 本 英 典	
顧 問	伊 藤 雅 俊	森 喜 朗	橋 本 聖 子	安 西 孝 之
	岡 崎 助 一	越 川 均	坂 元 要	勝 田 隆
	室 伏 由 佳	村 松 さ や か	湯 川 和 之	植 田 実
	櫻 井 由 香	鹿 島 丈 博	吉 岡 成 子	石 井 砂 織
	笠 師 久 美 子	飯 塚 悟	久 保 正 美	浦 美 奈 子
	木 平 芳 定	中 嶋 実	小 寺 洋	桐 木 陽 子
	旗 生 康 之	池 田 め ぐ み	工 藤 保 子	久 保 直 生
	藤 田 裕 司	藤 原 誠	室 城 信 之	金 子 日 出 澄
	貝 瀬 智 洋	森 晃	土 橋 登 志 久	石 丸 元 国
	多 氣 洋 平	井 崎 洋 志	鬼 頭 有 紀 子	長 谷 川 洋 子
	吉 田 長 寿	齋 木 尚 子	多 賀 恒 雄	安 藤 淳
	上 治 丈 太 郎	湧 永 寛 仁	上 原 絵 美	佐 藤 健 司
	馬 場 美 香	山 口 宏	南 和 文	宮 永 美 寿 津
	千 田 健 一	中 里 壮 也	岡 本 友 章	大 野 淳
	加 藤 出	田 村 恒 彦	蒔 田 実	山 崎 勝 洋
	浅 見 敬 子	山 口 徹 正	田 中 伸 周	村 田 利 衛
	建 部 彰 弘	市 野 保 己	丸 石 博	中 村 ゆ 里 子
	齋 藤 良 太 郎	谷 田 部 和 彦	木 村 博 美	井 上 弘
	今 川 啓 一	近 藤 重 和	池 谷 正 成	大 澤 明 美
	古 城 資 久	小 野 賢 二	園 山 和 夫	中 山 俊 行
	田 中 徹	知 念 か お る	出 口 弘 之	田 邊 哲 人
	城 門 政 文	前 川 恵	上 杉 晃 央	布 村 幸 彦
	茂 野 直 久	生 島 典 明	大 沢 陽 子	谷 藤 節 雄
	熊 谷 幸 一	千 葉 玲 佳	奥 山 雅 信	酒 井 祐 一
	藤 田 知 巳	北 條 俊 明	田 子 昌 之	新 井 彰
	山 崎 成 夫	塩 見 清 仁	田 名 部 高 雄	井 出 仁
	今 西 博 一	中 村 宏 平	松 本 智 広	森 山 喜 博
	南 部 則 雄	福 永 秀 樹	高 橋 繁 浩	山 本 健 次
	増 田 和 伯	猪 飼 敏 之	山 本 誠 三	松 本 恭 幸

船田 一彦	奥田 晃	横尾 英治	小西 慎太郎
近藤 一幸	堂本 ひさ美	河村 祐一	渡邊 浩三
田中 稔	馬越 祐希	青木 章泰	城戸 英敏
藤本 武	小柳 勝彦	辛木 秀子	宮成 康蔵
藤本 格	岩元 幸成	平良 朝治	藤原 正樹
大河原 嘉朗	川上 隆弘	佐藤 廣子	奈良 隆
小菅 司	宇津木 妙子	菊 幸一	小林 久美
寺澤 正孝	山口 純子	武部 新	野 中厚
金城 泰邦	赤松 健	増子 宏	矢野 和彦
茂里 肇	浅野 敦行	有村 治子	上野 賢一郎
大岡 敏孝	嘉田 由紀子	北野 裕子	小寺 裕雄
こやり 隆史	斎藤 アレックス	武村 展英	宮本 和宏
目片 信悟	村井 泰彦	北村 嘉英	小椋 正清
伊藤 定勉	草野 聖地	杉浦 和人	永浜 明子
有森 裕子	鈴木 大地	宮本 恒靖	深澤 祐二
坂田 東一	三須 和泰	仲間 達也	川合 俊一
藤田 直志	三屋 裕子	富山 英明	馬場 益弘
砂岡 良治	金丸 恭文	安道 光二	河田 正也
豊田 章男	千 玄 室	中村 真一	牧島 かれん
村井 満	永谷 喜一郎	真砂 威	土田 雅人
町田 幸男	大野 正次	世耕 弘成	笹川 善弘
番匠 幸一郎	久保 素子	丹羽 秀樹	岩城 光英
寶 馨	荒川 裕生	小谷 知也	達増 拓也
鶴田 有司	吉村 美栄子	北村 清士	大井川 和彦
福田 富一	遠藤 祐司	大野 元裕	熊谷 俊人
山本 博	岡田 伸浩	花角 英世	新田 八朗
馳 浩	杉本 達治	高野 剛	阿部 守一
田口 義隆	中谷 多加二	大村 秀章	伊藤 歳恭
西脇 隆俊	高橋 知史	齋藤 元彦	池田 誠也
宮崎 泉	林 昭男	丸山 達也	越宗 孝昌
苅田 知英	村岡 嗣政	後藤田 正純	槙田 實
大塚 岩男	服部 誠太郎	山口 祥義	大石 賢吾
甲斐 隆博	麻生 益直	日隈 俊郎	塙田 康一
玉城 デニ一			

参

与

糸井 圭子
井狩 辰也

大杉 住子
今江 政彦

赤井 康彦
岩崎 和也

有村 國俊
小河 文人

小川 泰江	奥村 芳正	海東 英和	加藤 誠一
河井 昭成	川島 隆二	河村 浩史	桐田 真人
九里 学	桑野 仁	駒井 千代	佐口 佳恵
重田 剛	柴田 栄一	柴田 清行	清水 鉄次
清水 ひとみ	白井 幸則	周防 清二	菅沼 利紀
田中 英樹	田中 誠	田中 松太郎	谷 成 隆
谷口 典隆	富波 義明	中川 雅史	中沢 啓子
中山 和行	野田 武宏	節木 三千代	本田 秀樹
村上 元庸	木沢 成人	森重 重則	東 勝
岸本 織江	土井 真一	窪田 知子	野村 早苗
塚本 晃弘	森 和之	園田 三恵	松田 千春
東郷 寛彦	中村 守	中村 達也	山田 忠利
奥山 光一	岡田 晓人	中田 佳恵	伊吹 信人
白井 稔	藤原 久美子	正木 隆義	保田 誠
小林 雅史	池内 久晃	原 陽一	北川 純二
佐藤 健司	田島 一成	浅見 宣義	小西 理
橋川 渉	森中 高史	竹村 健	岩永 裕貴
櫻本 直樹	松浦 加代子	今城 克啓	角田 航也
堀江 和博	西田 秀治	有村 国知	寺本 純二
久保 久良	藤田 善久	甲津 和寿	堤 清司
高橋 祥二郎	市田 良夫	藤堂 寛	野村 昌弘
熊倉 正志	涌井 努	岸 智昭	武田 英明
山本 博一	寺村 義伸	金澤 博文	山本 順
杉原 真也	竹林 幸祥	山田 貴司	上西 保
一圓 泰成	石井 太	川戸 良幸	田畑 太郎
高橋 健太郎	草野 とし子	三木 恒治	市川 忠穂
上村 照代	富長 弘宣	佐野 智哉	太田 千恵子
赤井 弘和	大西 孝雄	崎山 美智子	
委員長	山本 浩		
副委員長	岩田 史昭	田中 秀和	辻 睦弘
総務委員	松永 敬子	稻垣 公雄	笠野 英弘
	菅原 哲朗	田崎 博道	松田 基子
	山澤 文裕	吉田 崇	出崎 和夫
	熊谷 利彦	佐橋 誠	田内 慎也
	江橋 千晴	加藤 弘和	小澤 大樹
	青木 克憲	安井 和治	西島 義典

委 員	平 野 了	高 橋 聖 一	吉 村 政 弘	若 月 等
	松 本 康 夫	福 土 幸 洋	栗 原 崇	細 野 光 史
	渡 邁 圭 太 郎	佐 久 間 裕 司	品 田 奥 義	濱 野 勉
	寺 澤 淳	黒 川 重 男	舟 喜 信 生	高 野 修
	中 梶 秀 則	安 藤 正 美	加 藤 憲 二	宮 川 良 輔
	鈴 木 章 広	川 口 巍	和 田 潔	岡 泉 茂
	田 口 大 祐	平 井 宏 治	岸 川 剛 之	西 原 斗 司 男
	菅 原 正 幸	高 橋 昇	長 南 哲 生	衛 藤 敬 輔
	渡 辺 久 雄	三 井 千 壽	鈴 木 信 吾	山 中 博 史
	井 本 亘	関 根 明 子	中 山 二 三 男	越 前 浩 司
	吉 田 由 美 子	杉 本 好 二	東 野 真 理 子	川 口 雅 三
	金 子 和 裕	野 口 友 里	品 治 恵 子	富 澤 佑 也
	政 岡 航 大	坊 百 花	小 河 原 百 映	田 口 雅 紀
	寺 垣 佑 介	田 中 遥 大	宇 高 章 広	近 藤 潤
	南 野 芳 広	池 本 佳 子	横 江 弘 昭	沼 波 輝
	門 久 仁 裕	清 水 直 子	高 井 和 紀	見 田 茂 紀
	加 藤 雄 樹	鈴 木 敦	瀬 谷 尚 男	大 貫 大 輔
	太 田 真 美	高 野 正 規	岩 楚 直 史	深 谷 祐 紀
	金 田 貴 人	新 保 賀	戒 田 由 香 里	児 玉 晶 香
	村 松 達 也	井 澤 克 行	林 剛 史	稻 葉 晴 伸
	杉 浦 美 紀	藤 田 隆 司	曾 我 学	木 原 哲 也
	高 橋 健 二	吉 村 宗 浩	中 嶋 純 也	前 田 康 博
	松 本 守 正	松 本 綾 子	田 口 新 也	河 口 英 史
	久 次 米 和 成	高 田 孝 行	辻 岡 英 幸	前 田 義 朗
	笠 井 康 行	尾 鶯 一 成	松 山 度 良	濱 本 昌 宏
	吉 野 賢 一 郎	横 山 美 和	山 元 尚 史	宮 城 直 人
	高 野 瑞 洋	遠 藤 信 哉	千 葉 雅 也	菅 間 裕 晃
	須 藤 勇 司	角 田 真 司	柄 澤 宏 之	竹 内 延 和
	東 瀬 義 人	酒 井 雅 洋	碓 井 稔	武 田 知 已
	井 上 哲	今 後 元 彦	沼 田 守 弘	田 部 長 右 衛 門
	竹 内 俊 勝	松 井 守	吉 岡 直 彦	刈 谷 好 孝
	寺 崎 雅 已	荒 木 健 治	平 江 公 一	黒 木 淳 一 郎
	渡 嘉 敷 通 之	綾 部 吉 也		

競技会役員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

名 誉 会 長	佐 藤 健 司						
会 長	千 田 健 一						
副 会 長	釜 谷 理 恵	山 口 俊 昭	平 野 博 文	小 野 清 司			
	渡 辺 一 生	伊 藤 義 樹					
顧 問	金 子 誠	織 田 毅	山 本 耕 司	小 澤 翳 央			
	張 西 厚 志	井 原 功	山 本 秀 雄	永 岡 訓 二			
	中 島 寛	星 野 敏	廣 濱 康 夫	三 宅 修 一			
	下 野 謹 也	大 澤 文 男	草 野 聖 地	島 崎 輝 久			
参 与	細 川 俊 行	細 川 力 男	葉 月 陽	浜 奥 修 利			
	衆 野 靖 七	青 山 三 四 郎	井 元 潔	奥 村 功			
	改 田 勝 彦	笠 谷 洋 佑	嘉 田 修 平	川 口 正 德			
	草 川 肇	幸 光 正 翼	小 島 義 雄	佐 藤 弘			
	杉 浦 智 子	竹 内 照 夫	竹 内 基 二	田 中 知 久			
	田 中 康 博	谷 祐 治	出 町 明 美	寺 田 英 幸			
	寺 谷 吉 寛	中 川 哲 也	中 田 一 子	八 田 憲 児			
	林 ま り	原 田 優 太	伴 孝 昭	日 隈 慈			
	福 永 英 晶	船 本 力	森 川 え り な	森 脇 謙 一			
	田 村 靖 二	周 防 美 智 子	大 西 祐 司	関 理 子			
	國 松 睦 生	北 潤 弘 康	初 田 久 德	内 川 直 樹			
	内 田 一 成	川 島 英 和	小 野 昌 幸	中 村 由 紀 子			
	菊 池 真 宏	岡 嶋 一 郎	宿 谷 繁 生	三 國 昌 克			
	小 島 浩 幸	南 堀 弘	清 水 美 幸	弓 坂 則 行			
	高 野 早 人	團 初 太 郎	目 片 清	安 西 将 也			
	中 山 敦 生	野 々 口 義 信	北 村 茂	河 本 英 典			
	津 田 新 三	松 尾 房 郎	井 上 欣 也	前 田 康 一			
	荒 谷 善 夫	奥 村 芳 正	宇 野 正 信	神 野 佳 樹			
	渡 辺 一 生	藤 原 健 二	二 宮 康 人	小 棕 正 清			
	こ や り 隆 史	田 濃 良 和	石 井 智	久 保 洋 司			
	西 田 元	米 田 博 文	岸 智 昭	田 矢 隆 一			
	人 見 和 宏	杉 原 真 也	田 畑 太 郎	大 森 聖 一			
	八 木 正 樹	大 西 延 明	北 川 有 紀	田 中 勉			
	金 子 博 美	前 川 賢 慈	高 橋 利 勝	畠 中 正 道			
	右 田 司	深 尾 宗 孝					

委 員 長	内 田 敏 朗		
副 委 員 長	大 塩 黙	宮 本 説 三	岸 本 英 幸
委 員	曾 良 中 研 司	和 田 潔	青 木 雄 介
	谷 崎 瑞 珂	菅 原 智 恵 子	前 畑 順 一
	長 倉 純 平	吉 野 谷 綾 子	友 利 杏 奈
	横 井 浩 治	恒 松 健 児	久 保 直 生
	森 忠 司	山 本 圭 子	藤 田 和 信
	堀 川 昌 弘	上 林 知 行	福 原 雅 人
	木 内 麻 衣 子	田 部 井 崇 博	谷 中 岳 思
	矢 幡 侑 菜	吉 田 聰	打 谷 桂 子

競 技 役 員

2025年9月10日現在
(順不同・敬称略)

競技委員長	千田 健一					
競技副委員長	渡辺 一生					
競技運営委員長	山口 俊昭					
競技運営副委員長	西山 勝					
競技日程進行委員長	野元 伸一郎					
技術委員	前畠 順一	和田 潔	飯田 徳光	金子 朋貴		
	米丘 健					
技術委員会事務局長	曾良中 研司					
技術委員会事務局次長	右田 司	村上 幸生				
技術委員会事務局員	谷中 岳思	田部井 崇博	堀池 美穂	大藪 知子		
	鬼頭 清恵	藤原 寿美	東 未来			
審判長	甲斐 正彦					
審判員	笹田 健一	森 忠司	大野 幸太	陰平 尚弥		
	森田 篤哉	土屋 夏生	佐藤 公良	杠 星哉		
	雨田 由香	田畠 泰章	原田 渉未	上村 明武		
	吉田 真奈美	森本 研吾	成田 武永	恒松 健児		
	齊藤 憲司	佐藤 秀明	山田 和行	倉田 美月		
	小林 善洋	田中 あや	福島 海斗			
用具検査官	釜井 昭人					
用具委員長	畠中 正道					
用具副委員長	畠中 典久					
用具委員	中川 紘太朗	窪 摩耶	野村 侑生	片野 麦穂		
	八和田 莉緒	斎藤 あおい	谷口 陽子	筒井 里音		
	小西 慶太	佐々木 花怜	大山 彰都			
記録委員長	岡本 純典					
記録副委員長	藤田 和信					
記録委員	西臺 卓哉	直居 樹生	宿院 徳真	矢幡 侑菜		
	小野 幸大					
報道委員長	辻村 真一郎					
報道副委員長	谷中 岳思	宿院 徳真				
報道委員	直居 樹生					
放送委員長	田部井 崇博					

放送委員	東 未来	大藪 知子		
ピスト委員長	村田 敬史			
ピスト副委員長	上林 知行			
ピスト委員	柳田 正法	谷川 至音	大西 蒼海	中村 英寛
	森田 浩彰	太田 朱音	庄司 光太朗	小鹿 崇
	竹内 圭一	保知 純乃介	花光 鳩斗	江澤 智樹
	加藤 康太郎	吉田 和高	加藤 美也子	杉田 敏幸
	柳本 晴生	山上 彩	乾 真佑佳	畠中 文明
	中村 健太	堀川 昌弘	福原 雅人	深尾 俐瑠紀
総務委員長	岸本 英幸			
総務副委員長	西野 公貢	木内 麻衣子		
総務委員	山田 良紀	平井 周子	伊藤 咲良	
総合成績計算委員長	末松 英司			
総合成績計算委員	岸本 英幸			
会場委員長	山本 圭子			
会場委員	畠中 純風	瀬津 李奈	嶋田 彩人	長野 咲穂
	松島 友美	大吉 陽子	木村 晴	吉田 百花
	東 真佑子			
医務委員長	深水 亮子			
医務委員	鬼頭 清恵	藤原 寿美		

競技補助員

2025年7月31日現在

(順不同)

滋賀県立膳所高等学校

滋賀県立大津商業高等学校

滋賀県立大津高等学校

滋賀県立玉川高等学校

滋賀県立石山高等学校

競技会係員

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実施本部職員一同

競技会補助員

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市ボランティア一同

大会実施要項

総 則

開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

滋賀県で開催する第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」は「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれる大会を目指して開催する。

実施方針

1 実施競技

(1) 正式競技 (37 競技)

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローリング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

(2) 公開競技 (7 競技)

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

(3) デモンストレーションスポーツ (26 競技)

インディアカ、ウォーキング、ウォーキングフットボール、小倉百人一首競技かるた、カローリング、還暦軟式野球、キンボールスポーツ・レクリエーション、里湖で地域を結ぶウォーキング、スポーツウェルネス吹矢、スポーツ鬼ごっこ、スポーツ拳法、スポーツチャンバラ、スリースマイルゴルフ、スローイングビンゴ、ソフトバレーボール、ネットでポンポイ、ノルディック・ウォーク、ひこねスーパーカロム、ビリヤード、フットサル、マリンスポーツフェスティバル、ミックスバレー ボール、モルック、ユニカール、ユニホック、ラジオ体操第3（初代・二代目）

(4) 特別競技 (1 競技)

高等学校野球

2 会期および会場地

(1) 正式競技・特別競技 (15市、4町：計19市町)

会期	会場地
2025年9月28日（日） ～10月8日（水） 〔11日間〕	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、大阪府豊能郡能勢町、兵庫県三木市
2025年9月6日（土） ～9月15日（月） 〔10日間〕	大津市、長浜市、草津市 ※ 水泳、体操、バレーボール（ビーチバレーボール）競技会は上記会場地で実施
2025年9月21日（日） ～9月25日（木） 〔5日間〕	東近江市、京都府向日市 ※ 自転車（トラック・レース、ロード・レース）競技会は上記会場地で実施

(2) 公開競技 (7市：計7市町)

会期	会場地
2025年8月23日（土） ～9月21日（日）	長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市

(3) デモンストレーションスポーツ (13市、1町：計14市町)

会期	会場地
2025年4月12日（土） ～9月14日（日）	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、多賀町

(4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2025年1月1日から2025年12月31日までの期間で、原則として、県内市町で開催する。

3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査およびアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」および別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名および親権者の署名がある同意書を所持すること。

5 参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準

選手および監督の参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 79 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県および年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/> 】

(1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手および監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校に在籍する学生または生徒で、「8 参加申込方法」で定めた参加申込締切時に 1 年以上在籍していること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」または「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

〔注〕 上記(ウ)b について、大学および専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理および難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手および監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 2023 年開催の特別大会または第 78 回大会（都道府県大会およびブロック大会を含む）において選手または監督として参加した者は、次の場合を除き、2023 年開催の特別大会または第 78 回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 「学校教育法」第 1 条に規定する学校を卒業した者

b 結婚または離婚に係る者

〔注〕 a および b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記 1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

〔注〕 別記 3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記 5 「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記 6 「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(イ) 少年種別

- a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者
 - b 結婚または離婚に係る者
 - c 一家転住に係る者（別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）
〔注〕 aからcは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。
 - d JOCエリートアカデミーに在籍する者（別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）
 - e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）
 - f 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）
- エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。
- オ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会および本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。
- カ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。
- キ 選手、監督ならびに本部役員帶同のスポーツドクターおよびアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。
- ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

- (ア) 都道府県大会およびブロック大会に参加し、これを通過した者であること。
 - (イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。
 - (ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。
- ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2) 所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア 成年種別

- (ア) 居住地を示す現住所
- (イ) 勤務地
- (ウ) ふるさと（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

〔注〕 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

- (ア) 居住地を示す現住所
- (イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）
- (ウ) 勤務地
- (エ) 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校

の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2025年4月30日以前から本大会終了時（2025年10月8日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、または通学していかなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- b 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

(ア) 成年種別に参加する者は、2007年4月1日以前に生まれた者とする。

(イ) 少年種別に参加する者は、2007年4月2日から2010年4月1日までに生まれた者とする。

(ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2025年4月1日を基準とする。

イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2010年4月2日から2011年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会および当該競技団体が調査・審議のうえ、日本スポーツ協会がその可否を決定する

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）および女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

(2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

(3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表彰

- (1) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。
- (2) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。
- (4) 各正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (5) 各競技の各種別および各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、または都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

8 参加申込方法

(1) 参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）および競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会またはブロック大会において選抜された者および公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込むものとする。

(2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。なお各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

(3) 参加申込締切日

締切日	競技
2025年 8月20日(水) 【12競技】	水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、レスリング、セーリング、自転車、相撲、カヌー、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン
2025年 9月4日(木) 【27競技】	陸上競技、サッカー、テニス、ホッケー、ボクシング、バレーボール（6人制）、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛に届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団（観察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人当たりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区分	負担金
少年の種別に参加する選手	3,000円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	6,000円

[注] 地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2025年9月5日(金)

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729
公益財団法人日本スポーツ協会

11 宿泊申込

大会参加者は、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12 都道府県選手団本部役員編成

- (1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。
 - ア 参加選手 500 名以上の場合、団長、総監督および総務ほか、計 20 名以内とする。
 - イ 参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 15 名以内とする。
 - ウ 参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 10 名以内とする。
- (2) 上記役員のほか、5 名以内の顧問を設けることができる。
- (3) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。
なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。
- (4) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。
なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。
- (5) 都道府県選手団本部役員の 1 日あたりの編成人数については、上記(1)および(2)による人数を上限とする。
- (6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2025 年 9 月 4 日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13 観察員

- (1) 観察員は、1 都道府県 3 名以内とする。ただし、2026 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定または内定している県については、青森県 100 名以内、宮崎県および長野県 60 名以内、群馬県および島根県 40 名以内とする。
- (2) 都道府県の観察員の参加申込は、2025 年 9 月 4 日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14 AD カードの交付

都道府県選手団、公開競技に参加する選手・監督および役員、大会役員・競技会役員および競技団体が指定した競技役員、大会主催者および競技会主催者が認めた者には AD カード (Accreditation Card) を交付する。

15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16 個人情報および肖像権に関する取り扱い

日本スポーツ協会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会および国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポーツ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報および肖像権の取り扱いについて以下のとおり対応するものとする。

(1) 個人情報の取り扱い

ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポーツ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) 総合プログラムおよび競技別プログラムへの掲載
- (イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介
- (ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載
- (エ) 大会関連ホームページへの掲載
- (オ) 報道機関への提供

ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

- (ア) わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
- (イ) 国スポーツ関係機関・団体および報道機関等による新聞・雑誌および関連ホームページ等への掲載
- (ウ) 国スポーツ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
- (エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝および上位入賞結果（記録）等】

(2) 肖像権に関する取り扱い

ア 写真

国スポーツ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書および関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真（写真撮影企業等）

国スポーツ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国スポーツ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映およびインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者および大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会およびブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

(1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会および中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会および中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

(2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

(3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は1人1競技に限る。

(4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会および当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

(5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

(6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

(7) 競技運営に差し支えない限り、滋賀県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会および都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

(1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会および本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、観察員ならびにその他選手団役員とする。

(2) 大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。

(3) 納入締切日および納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ

通知する。

19 わた SHIGA 輝く国スポの取組

(1) 環境に配慮した大会の実施

スポーツの楽しさや感動を分かち合うとともに、滋賀県に受け継がれている身の回りの生活から自然環境を考える取組を県民や企業、大会に関わるすべての参加者が実践することで、「人と人、人と地域、人と自然」の繋がりを深めることができるよう取り組む。

(2) おもてなしと滋賀の魅力発信

豊かな自然や歴史、文化、芸術、祭り、伝統芸能、特産品などの地域資源、湖上スポーツをはじめとした滋賀ならではのスポーツ環境など、滋賀の魅力を発信し、来県者が滋賀での滞在を楽しむことができるよう取り組む。

(3) 誰もが主役として輝ける取組の推進

年齢や性別、障害の有無などを問わず、誰もが一層身近にスポーツを楽しむことができる環境をつくり、誰もがボランティアや大会関連行事等に積極的に参加できる環境をつくるなど、それぞれのスタイルで「する」「みる」「支える」の体験ができる大会となるよう取り組む。

20 その他

- (1) 参加申込および宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、または、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。
- (2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。
- (3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項および同細則による。

別記1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
 - (1) 居住地を示す現住所
 - (2) 勤務地
 - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者および「永住者」については、日本における滞在期間に問わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者および『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛に提出する。

別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③）に抵触しないものとする。
 - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
 - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
 - ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
 - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
 - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
 - イ 報告を受けた都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
 - (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
 - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕および別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手でJOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手でJOC エリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-2) - ②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) - ③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1) - ③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容がJOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第33回オリンピック競技大会（2024年・パリ）に参加した者。
- (2) 2025年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア JOC オリンピック強化指定選手

イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者

ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会およびブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手またはチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」または「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、または自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③のとおりとする。

別記5 「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-(3)（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

（ア） 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

（イ） 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者について

は、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていないとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

＜例＞ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合

他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度(小学校は2015年度)までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

別記6 「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていないくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から当該大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)～(3)（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかつた者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

（ア） 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

（イ） 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

〔注〕 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていないくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学して

いる実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

- ＜例＞ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合
 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合
 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度(小学校は2028年度)までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

実施要項

1 期 日 2025年9月29日(月)から10月2日(木)まで(4日間)

種別	種目	9月29日(月)	9月30日(火)	10月1日(水)	10月2日(木)
成年男子	フルーレ	1～2回戦	3回戦～決勝		
	サーブル			1～2回戦	3回戦～決勝
成年女子	フルーレ	1～2回戦	準々決勝～ 決勝		
	エペ			1回戦	2回戦～決勝
少年男子	フルーレ		1～2回戦	準々決勝～ 決勝	
少年女子	フルーレ		1～2回戦	準々決勝～ 決勝	

2 会 場 大津市 ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)

3 種別(種目)及び参加人員

種別	監督	選手	参加都道府県	小計	合計(人)
成年男子	3		47	141	339
成年女子	3		18	54	
少年男子	1	3	18	72	
少年女子	1	3	18	72	

(注) 成年男女の選手は、監督を兼ねる。

4 競技上の規程及び方法

- (1) 競技規則は、FIE 規則及び公益社団法人日本フェンシング協会の定める競技規則による。
- (2) 試合内容は、各種目とも1チーム3名編成の紅白戦による団体戦とする。
- (3) 1回戦及び2回戦は、リーグ戦方式、以後はトーナメント方式とする。
- (4) 各種別及び各種目とも1～8位決定戦を行う。

5 予選方法

- (1) 各都道府県協会は、都道府県大会を実施し、ブロック大会及び本大会に出場する選手を決定する。
- (2) 実施要領
 - ア 都道府県大会は、その主催する支部において、細目を決定し実施すること。
 - イ ブロック大会は、その主催する支部が同一ブロック内の支部と協議して本大会に準じて細目を決定し実施すること。

(3) 報告

都道府県大会及びブロック大会とも競技終了後 5 日以内に試合成績表を必ず公益社団法人日本フェンシング協会宛に提出すること。

(4) ブロック大会区分及び代表チーム数は、下記のとおりとする。

ブロック名	都道府県名	成年女子	少年男子	少年女子
北海道	北海道	1	1	1
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	3	2	2
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	3	4	3
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	1	1	2
東海	静岡、愛知、三重、岐阜	2	1	1
近畿	京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	2	3	2
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1	1	2
四国	香川、徳島、愛媛、高知	2	2	1
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	2	2	3
開催県	滋賀	1	1	1
計		18	18	18

6 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則 5 に定めるもののほか、次による。

監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認フェンシングコーチ 1、公認フェンシングコーチ 3、公認フェンシングコーチ 4 のいずれかの資格を有していること。

監督・選手は、都道府県大会以前に公益社団法人日本フェンシング協会の会員登録をすませた者とする。

都道府県大会・ブロック大会とそれぞれ異なる種別への参加を認める。ただし、選手は都道府県大会に参加している者に限る。

なお、少年種別に参加できる選手には、2010 年 4 月 2 日から 2011 年 4 月 1 日までの間に生まれた中学 3 年生を含むものとする。

7 総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競技得点
成年男子	成年女子	各種目とも 1 位 24 点、2 位 21 点、3 位 18 点、4 位 15 点、5 位 12 点、6 位 9 点、7 位 6 点、8 位 3 点の競技得点を与える。
成年女子	成年男子	
少年男子	少年女子	
少年女子	少年男子	

(2) 参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に 10 点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

8 表彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績の第1位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 少年男子、少年女子の各種別及び成年男子・成年女子の各種目の第1位から第8位までに、賞状を授与する。

9 参加申込み方法

- (1) 所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、必要事項を記入の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、2025年9月4日（木）までに申込み手続きを完了すること。
- (2) 締切期限以降は所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスできなくなるので、期限を厳守すること。
- (3) 参加申込み締切後の選手・監督の変更は、死亡、傷病、傷害、転勤等の特別な場合のみ認めるものとし、その取扱いは次の通りとする。

ア 提出期限 2025年9月27日（土）【技術委員会会議前日まで】

イ 提出先

(ア) 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
公益社団法人日本フェンシング協会
TEL 03-5843-0040 FAX 03-5843-0041

(イ) 〒520-0807 滋賀県大津市松本一丁目2番1号
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局
(滋賀県国スポ・障スポ大会局 競技運営室 競技第一係)
TEL 077-528-3324 FAX 077-528-4836
MAIL kokusupo-sanka@pref.shiga.lg.jp

(ウ) 〒520-0805 滋賀県大津市石場10番53号
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局
(大津市政策調整部国スポ・障スポ大会局大会競技課)
TEL 077-528-0310・0320 FAX 077-522-7766
MAIL koku-spo.fencing@city.otsu.lg.jp

ウ 提出書類

選手変更を証明するものを添付し、文書にて届出をする。なお、提出先の(イ)(ウ)について、原則メールにて提出とする。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより参加申込み情報を修正すること。

10 その他

- (1) 組合せ抽選会

日 時 2025年9月6日（土）午後1時
場 所 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 会議室
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
公益社団法人日本フェンシング協会事務局
TEL 03-5843-0040 FAX 03-5843-0041

- (2) 技術委員会会議

日 時 2025年9月28日（日）午後2時
場 所 びわ湖大津プリンスホテル
〒520-8520 滋賀県大津市におの浜四丁目7番7号

(3) 審判会議

日 時 2025年9月28日（日） 午後3時
 場 所 びわ湖大津プリンスホテル
 〒520-8520 滋賀県大津市におの浜四丁目7番7号
 TEL 077-521-1111 FAX 077-521-5519

(4) 監督会議

日 時 2025年9月28日（日） 午後4時
 場 所 びわ湖大津プリンスホテル
 〒520-8520 滋賀県大津市におの浜四丁目7番7号
 TEL 077-521-1111 FAX 077-521-5519

(5) 総合表彰式

日 時 2025年10月2日（木） 午後1時
 場 所 ウカルちゃんアリーナ（滋賀県立体育館）
 〒520-0801 滋賀県大津市におの浜四丁目2番12号
 TEL 077-524-0221 FAX 077-522-9637

(6) 用具検査について

ア 試合に使用する用具は、競技会場用具検査室で行う検査に合格し、所定の検査合格証が明示してあるものを使用しなければならない。特に以下の5点について安全確保のためFIE公認用具を適用する。（ユニフォーム上下、プロテクター、ソフトカバー付きチエストプロテクター（フルーレのみ）、マスク）
 (ア) FIE公認マーク付きユニフォーム上下 800N（少年の部は350N以上）
 (イ) FIE公認マーク付き半袖付プロテクター 800N
 (ウ) フルーレについては、FIE公認ソフトカバー付きチエストプロテクター
 (エ) FIE公認マーク付きマスク 1600N
 (オ) 2010年6月13日付け「競技における事故防止・安全管理について」、2015年1月8日付け「マスクの安全基準改定について」、ルール・審判委員会2018年9月6日付け「胸部保護具他に関する規則適用について」、2019年9月11日付け「電気サーブル用グローブに関する規定について」に準ずる。2024年1月22日付け「FIE用具規定(m) ルール変更に伴う適用について（改訂）」を適用する。

イ 用具検査は、次の日程で行う。試合の前日には必ず検査を受けるようにすること。

検査日時	実施種目	検査対象用具
9月28日（日） 12:00～17:00	成年男子・成年女子フルーレ	○剣 (4本) ○フルーレ・マスク (2個) ○エペ・マスク (2個)
9月29日（月） 8:00～競技終了	成年男子・成年女子フルーレ 少年男子・少年女子フルーレ	○サーブル・マスク (2個) ○ボディワイヤー (3本) ○メタルジャケット (2着)
9月30日（火） 8:00～競技終了	成年男子フルーレ・サーブル 成年女子フルーレ・エペ 少年男子・少年女子フルーレ	○フルーレ・マスクケーブル (2本) ○サーブル・マスクケーブル (2本) ○FIE一体型サーブル用グローブまたはFIEサーブルグローブ+カフ(2個)
10月1日（水） 8:00～競技終了	成年男子サーブル 成年女子エペ 少年男子・少年女子フルーレ	
10月2日（木） 8:00～競技終了	成年男子サーブル 成年女子エペ	

- (注1) 検査対象用具については、過去の合格シール・ゼッケン等すべて取り外しておくこと。
- (注2) ブレードとガードに鋒が付いているものは受け付けない。
- (注3) マスクについては、安全バンドが付いているものでなければならない。
- (注4) フルーレのマスクは、絶縁されたものでなければならない。
- (注5) 2日目以降の取り扱い終了時間は、原則として競技終了時とする。
- (注6) 検査対象用具の（ ）内は、1人が検査に出せる最大数である。
- (注7) 国民スポーツ大会ユニフォーム規程「いかなる形の広告や宣伝活動、コマーシャル等（以下「広告」という。）の表示がない衣服を着用するものとする。」
(例：ユニフォーム上・下 メタルジャケット・ストッキング等全て)
横断幕等へのスポンサー名や所属企業名の掲載も禁止とする。

表 彰 式 次 第

1 式典の日時

種目別表彰式① (成年男子フルーレ) (成年女子フルーレ)	【日 時】	2025年9月30日 (火) (12:00 開始予定 30分程度)
種目別表彰式② (少年男子フルーレ) (少年女子フルーレ)	【日 時】	2025年10月1日 (水) (12:00 開始予定 30分程度)
種目別表彰式③ (成年男子サーブル) (成年女子エペ)	【日 時】	2025年10月2日 (木) (13:00 開始予定 30分程度)
総合表彰式 (女子総合) (男女総合)	【日 時】	2025年10月2日 (木) (種目別表彰式③に引続き)
閉会式	【日 時】	2025年10月2日 (木) (総合表彰式に引続き)

2 式次第

種目別表彰式 【次第】

- 1 開式通告
- 2 授与者紹介
- 3 成績発表 (女子)
- 4 賞状授与 (成年女子フルーレ・少年女子フルーレ・成年女子エペ)
- 5 成績発表 (男子)
- 6 賞状授与 (成年男子フルーレ・少年男子フルーレ・成年男子サーブル)
- 7 閉式通告

総合表彰式・閉会式 【次第】 (10月2日のみ)

- 8 開式通告
- 9 女子総合成績発表
- 10 表彰状授与
- 11 男女総合成績発表
- 12 表彰状・大会会長トロフィー授与
- 13 競技会会長あいさつ
- 14 歓送のことば
- 15 国旗、大会旗・協会旗・県旗・市旗儀礼
- 16 競技会終了宣言
- 17 閉式通告

フェンシング競技

競技日程

会議名	日時	場所
技術委員会会議	9月28日(日) 14時00分	びわ湖大津プリンスホテル
審判会議	9月28日(日) 15時00分	びわ湖大津プリンスホテル
監督会議	9月28日(日) 16時00分	びわ湖大津プリンスホテル

会場		月日	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
			9月29日(月)	9月30日(火)	10月1日(水)	10月2日(木)
ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)	成年男子	フルーレ	1~2回戦 9:00~14:50	3回戦~決勝 9:00~11:50 表彰式 12:00~12:30		
		サーブル			1~2回戦 9:00~16:30	3回戦~決勝 9:00~12:00 表彰式・閉会式 13:00~13:50
	成年女子	フルーレ	1~2回戦 11:20~16:00	準々決勝~決勝 9:30~11:50 表彰式 12:00~12:30		
		エペ			1回戦 14:30~15:40	2回戦~決勝 9:00~12:00 表彰式・閉会式 13:00~13:50
	少年男子	フルーレ		1~2回戦 13:40~16:00	準々決勝~決勝 9:30~11:50 表彰式 12:00~12:30	
	少年女子	フルーレ		1~2回戦 12:30~16:00	準々決勝~決勝 9:00~11:50 表彰式 12:00~12:30	

総合表彰式・閉会式	10月2日(木)	13時00分	ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)
-----------	----------	--------	---------------------

競技日程表(第1日目)

9月29日(月) 成年男子フルーレ(1~2回戦) 成年女子フルーレ(1~2回戦)

時刻	ピスト	1ピスト	2ピスト	3ピスト	4ピスト	5ピスト	6ピスト	7ピスト	8ピスト
8:00									
8:30									
9:00									
10:00									
11:00									
12:00									
13:00									
14:00									
15:00									
16:00									
17:00									

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

競技日程表(第2日目)

9月30日(火) 成年男子フルーレ(3回戦～決勝) 成年女子フルーレ(準々決勝～決勝)
 少年男子フルーレ(1～2回戦) 少年女子フルーレ(1～2回戦)

時刻	ピスト	1ピスト	2ピスト	3ピスト	4ピスト	5ピスト	6ピスト	7ピスト	8ピスト
8:00									
8:30									
9:00									
10:00									
11:00									
12:00									
13:00									
14:00									
15:00									
16:00									
17:00									

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

競技日程表(第3日目)

10月1日(水) 成年男子サーブル(1~2回戦) 成年女子エペ(1回戦)
少年男子フルーレ(準々決勝~決勝) 少年女子フルーレ(準々決勝~決勝)

時刻	ピスト	1ピスト	2ピスト	3ピスト	4ピスト	5ピスト	6ピスト	7ピスト	8ピスト
8:00									
8:30									
9:00									
10:00									
11:00									
12:00									
13:00									
14:00									
15:00									
16:00									
17:00									

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

競技日程表(第4日目)

10月2日(木) 成年男子サーブル(3回戦～決勝) 成年女子エペ(2回戦～決勝)

時刻 \ ピスト	1ピスト	2ピスト	3ピスト	4ピスト	5ピスト	6ピスト	7ピスト	8ピスト
8:00								
8:30								
9:00								
10:00								
11:00								
12:00								
13:00								
14:00								
15:00								
16:00								
17:00								

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

アップ場・練習会場開設時間

開設日	アップ場	練習場
	ウカルちゃんアリーナ 別館	におの浜ふれあいスポーツセンター
9月28日(日)	10:00～17:00	12:00～17:00
9月29日(月)	8:00～競技終了まで	8:00～競技終了まで
9月30日(火)	8:00～競技終了まで	8:00～競技終了まで
10月1日(水)	8:00～競技終了まで	8:00～競技終了まで
10月2日(木)	8:00～競技終了まで	8:00～競技終了まで

【注意事項】

- 1 上記の開設時間を厳守してください。
- 2 アップ場及び練習会場以外での練習は禁止です。
- 3 自由練習としますが、混み合っている場合は、お互いに譲り合って使用してください。
- 4 9月29日(月)～10月2日(木)については、第1試合出場の選手のみ、競技会場での練習を許可します(8:00～8:50に限る)。
- 5 練習会場のにおの浜ふれあいスポーツセンター入場の際にはADカードの確認があります。必ず着用してください。
- 6 水分補給時を除き飲食禁止、土足厳禁です。飲料等をこぼした場合は、必ず拭き取ってください。またフロアの上で物を引きずらないでください。
- 7 用具やゴミを放置しないでください。
- 8 用具は、荷物置場に整頓して置いてください。
- 9 剣の曲がりを直す際には、剣身修正板を使用してください。
- 10 トレーナーが施術する際に使用するマッサージベッドについては、滋賀県立武道館2階の選手控室及びウカルちゃんアリーナ別館荷物置場でのみ使用を許可します。アップ場内、練習会場内での使用は禁止です。
- 11 貴重品については、各自で責任を持って管理してください。
- 12 施設内は、全て禁煙です。屋外の喫煙所を利用してください。

第79回国民スポーツ大会フェンシング競技について

1 競技運営方法は、「第79回国民スポーツ大会フェンシング競技実施要項」による。

2 競技種別・種目及び参加人数

- (1) 成年男子 監督兼選手1名 選手2名 (フルーレ・サーブル)
- (2) 成年女子 監督兼選手1名 選手2名 (フルーレ・エペ)
※ 成年男子・女子の監督は、選手を兼ねる。
- (3) 少年男子 監督1名 選手3名 (フルーレ)
- (4) 少年女子 監督1名 選手3名 (フルーレ)

3 競技上の規則及び方法

- (1) 競技規則は、F. I. E規則及び（公社）日本フェンシング協会の定める競技規則を準用する。
※ビデオ判定システムは準々決勝より導入する。
両チームの選手は1試合（5本勝負）につき、1回のビデオ判定の要請が許可される。
主審の判定で間違いが明らかになった場合、選手のビデオ判定の要請はカウントされない。
主審の判定が正しかった場合、判定の要請はカウントされ、その後、選手は要請出来なくなる。
- (2) 試合方法は、各種目とも1チーム3名編成の紅白戦による団体戦とする。
- (3) 1回戦及び2回戦は、3チーム～4チームによるリーグ戦を行い、そのうち各プール上位2チームが2回戦及び3回戦に進出する。
3回戦以降はトーナメント方式とし、1～8位決定戦を行う。
- (4) 試合時間は、全種目3分間実働とする。
- (5) 全種目5本勝負とし、片方の選手がトウシュを5本先取したとき、または、有効な試合時間が3分経過したときに終了する。その時点ではトウシュを多く取っている選手が勝者となる。記録は5本先取したとき、勝者にはV、敗者にはその時点での突数のみを記す。
※ 規定時間終了時に同点の場合は、次により勝者を決定する。
 - ①アドヴァンテージ決定のための抽選の後、1分間を限度として1本勝負を行う。
この間に勝者が決定しない場合は、アドヴァンテージを有する選手が勝者となる。
記録は勝者にはVの後に同点時の突数を記し、敗者には同点時の突数のみを記す。
 - ②1本勝負で勝者が決定した場合は、記録表に記入するスコアは、勝者にはVの後に同点時の突数に1本を加えた突数、敗者には同点時の突数を記す。
 - ③エペにおいては、4-4からのクー・ドゥブル及び3分のタイムアップ後のクー・ドゥブルは記録しない。
- (6) 同一プールにおける順位は、次の順序により決定される。
 - ①チーム勝数の多い方を上位とする。
 - ②チーム勝数が同一の場合は、個人勝数が多い方を上位とする。
 - ③個人勝数も同一の場合は、そのチームの全部の突数（TD）と被突数（TR）から計算したTD-TR指数が高い方を上位とする。
 - ④TD-TR指数も同じ場合は、突数（TD）の多い方を上位とする。
 - ⑤上記がすべて同じ場合は、その順位は同等とする。もし、団体間の差異が必要なら監督が指名した代表者1名によるバラージを行う。
- (7) トーナメントの試合で、いずれか一方のチームが2勝したら試合を終了する。

- (8) ベンチは、そのプールの中の若い番号のチームがプレジダンの右手側に位置する。トーナメントの場合は表の上側を若い番号とする。
- (9) 各プール内の試合順序は、次のとおりとする。

* 3 チームのプール戦

- 第1試合 1—2
第2試合 第1試合の敗者—3
第3試合 第1試合の勝者—3

* 4 チームのプール戦

- 第1試合 1—4
第2試合 2—3
第3試合 第1試合の勝者—第2試合の敗者
第4試合 第1試合の敗者—第2試合の勝者
第5試合 2勝しているチームとそのチームの残り試合。または、2勝同士の試合。
1勝1敗の場合は3試合の勝者の残り試合

第6試合 残りの試合

以上の順番で行い、失格決定チーム同士の試合は行わない。

※プール内の番号 (No.) はコンピューターの抽選により行う。

4 組合せ決定方法

組合せの決定方法は、次に定めるところによる。なお、第1回戦の組合せ抽選は、公益財団法人日本スポーツ協会代表と（公社）日本フェンシング協会代表及び技術委員により、9月6日に行われた。

- (1) 成年男子フルーレは、第78回競技会（佐賀市）の第8位までの都道府県をシードとする。
(2) 成年男子サーブルは、特別競技会（垂水市）の第8位までの都道府県をシードとする。
(3) 成年女子フルーレ・少年男子・少年女子は、第78回競技会（佐賀市）の第8位までの都道府県で今競技会に出場している上位6チームまでをシードとする。

ただし、第78回競技会（佐賀市）第8位までの都道府県で今競技会に出場しているチームが5チーム以下の場合は、該当数までしかシードを行わない。

- (4) 成年女子エペは、特別競技会（垂水市）の第8位までの都道府県で今競技会に出場している上位6チームまでをシードとする。

ただし、特別競技会（垂水市）8位までの都道府県で今競技会に出場しているチームが5チーム以下の場合は該当数までしかシードを行わない。

- (5) 各種別各種目とも、第1回戦は同一ブロック内の対戦は行わない。
(6) 上記以外は、無差別抽選とする。

(7) 第2回戦については、第1回戦の成績に基づき、技術委員会において決定する。ただし、この組合せに関する限りは同一ブロック・1回戦での対戦があっても一切考慮しない。

- (8) 第3回戦については、第2回戦の成績に基づき、技術委員会において決定する。ただし、この組合せに関する限りは同一ブロック・前回戦での対戦があっても一切考慮しない。

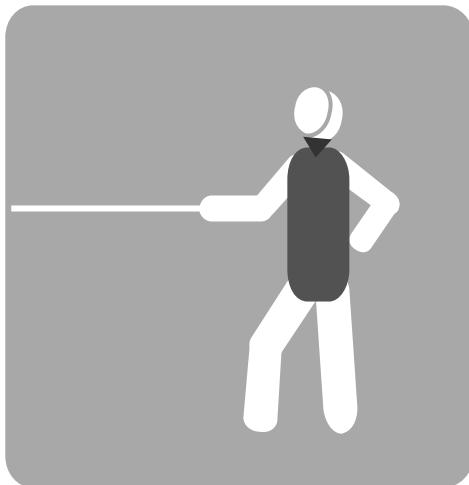
※ シード順位に関する限りは、次の優先順位により決定する。

- ① チーム勝率
- ② 総個人勝率（総勝数÷総試合数）
- ③ 総突率（総突数÷総被突数）
- ④ ①～③がすべて同じ場合は、1回戦組合せシード順位（含む抽選順位）の高い方を上位とする。

5 注意事項

- (1) 電気剣・ボディーコード・メタルジャケット等は故障のないようによく整備し、試合前に必ず用具検査を行うこと。
- (2) フルーレ・エペについては、主催者の用意する「ゼッケン」をマスクに貼りつけて出場すること。
サーブルについては、主催者の用意する「ゼッケン」をユニフォームの後ろ足大腿部に縫い付けて出場すること。また、監督については、ADカードを必ず着用すること。
- (3) 組合せ及び試合日程、時間、ピストの変更などDTからの連絡事項は、DT掲示板によって行う。(場内放送ともども十分注意すること。)
- (4) 競技開始時間が早くなることがあるので、選手は競技開始予定時間1時間前に会場に到着していること。
- (5) コールは、競技開始予定時間の30分前に行う。
- (6) 試合開始15分前までに、競技会場の選手待機所に試合のできる状態で待機すること。
- (7) 女子の場合は、Tシャツの上に強固な素材による「前胸部保護具」を着用し、さらに胸当て(布製プロテクター)を着用すること。
男子の場合は、「前胸部保護具」の使用は認めるが、その場合も保護具の上に胸当て(布製プロテクター)を着用すること。
- (8) 試合開始前、ピストにて審判員がユニフォームの点検を実施する。
- (9) 「メンバー票」提出後、試合が始まるまでの間は、競技会場の選手待機所で待機すること。
- (10) 競技会場フロア及びピスト選手席には、当該種目の選手・監督以外は入場できない。
- (11) 出場都道府県のチーム名プレートはピスト委員が掲示する。
- (12) ピスト選手席へのフェンシングバックの持ち込みは認めない。フェンシングバック等は、選手控所の荷物置場に整理整頓して置くこと。また、貴重品等は各自で管理すること。
- (13) 競技会場、アップ場及び練習会場を直接剣で突いたり、剣やマスクを投げつけたり、ものを引きずったりなどフロアを傷つける行為は絶対にしないこと。
- (14) 競技会場、アップ場及び練習会場では、原則飲食禁止。ただし、試合や練習時の水分補給については特別に許可する。飲料等をこぼした場合は、拭き取ること。

Fleuret (フルーレ)



[剣の重さ	500g以下]
[剣の全長	110cm以下]
[ガードから剣先まで	90cm以下]
[ガードの直径	12cm以下]

剣先には500gの強さのバネが入っていて、これ以上の力で突くとランプが点灯します。剣はしなやかで、昔、剣先に色のついたポイントをつけていたため、フランス人はこの種目を花 (Fleuret:フルーレ) にたとえたことから、「フルーレ」という名前が生まれました。

部分が有効面

フルーレは、3種目の競技のうち一番基本的となるもので、突きだけを用います。

昔、まだ剣術の練習に真剣を使っていた頃（マスクもなかった）、危険を避けるため約束事を決めました。それは、相手が攻撃をしてきたら、その剣を払ってからでなければ反撃してはいけないという決め事です。この練習のための技術がスポーツ化したものがフェンシングです。

フルーレでは「攻撃をするためには、まず腕を伸ばす」ことから始まり「攻撃されれば、相手の剣を完全に払いのけて攻撃」をしなければなりません。この攻撃と反撃の剣と剣の渡り合いが、フルーレの最大の見どころといえるでしょう。

フランスでは、この剣と剣の攻防をPhrase d' arme: フラーズ・ダ・ルム（剣と剣の旋律）と表現するほどです。

フルーレには有効面と無効面があり、有効面は金属繊維で出来ているジャケットを着用した部分（頭・両足・両腕を除いた胴体部分すべて）とマスクの一部（ビブ）です。その部分を突くと突いた選手側の「赤」または「緑」の色ランプが点灯し、突いた選手の得点が入ります。無効面を突くと、「白」のランプが点灯します。

両方のランプがほとんど同じに点灯した場合などは、試合規則によってどちらかの攻撃が有効であったか、あるいは「同時攻撃」であったかを、主審が判定します。

フェンシング競技 組合せ表

【成年男子】 <フルーレ>

1回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
鳥取県	1								
大分県	2								
埼玉県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
香川県	1								
山口県	2								
東京都	3								

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
熊本県	1									
京都府	2									
島根県	3									
山梨県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
宮崎県	1									
石川県	2									
愛媛県	3									
奈良県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
岐阜県	1									
千葉県	2									
北海道	3									
秋田県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
和歌山県	1									
新潟県	2									
青森県	3									
鹿児島県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
兵庫県	1									
高知県	2									
愛知県	3									
栃木県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
沖縄県	1									
徳島県	2									
三重県	3									
長野県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
福島県	1									
富山県	2									
神奈川県	3									
大阪府	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
滋賀県	1									
茨城県	2									
佐賀県	3									
岩手県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
福岡県	1									
静岡県	2									
山形県	3									
岡山県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
長崎県	1									
宮城県	2									
群馬県	3									
福井県	4									

※ V : 団体勝数

VI : 個人勝数

TD : 突数

TR : 被突数

PL : 順位

フェンシング競技 組合せ表

【 成 年 男 子 】
＜フルーレ＞

2回戦（各プール2チーム上がり）

都道府県名	No.	1	2	3	V	V1	TD	TR	PL
⑧	1								
	2								
	3								

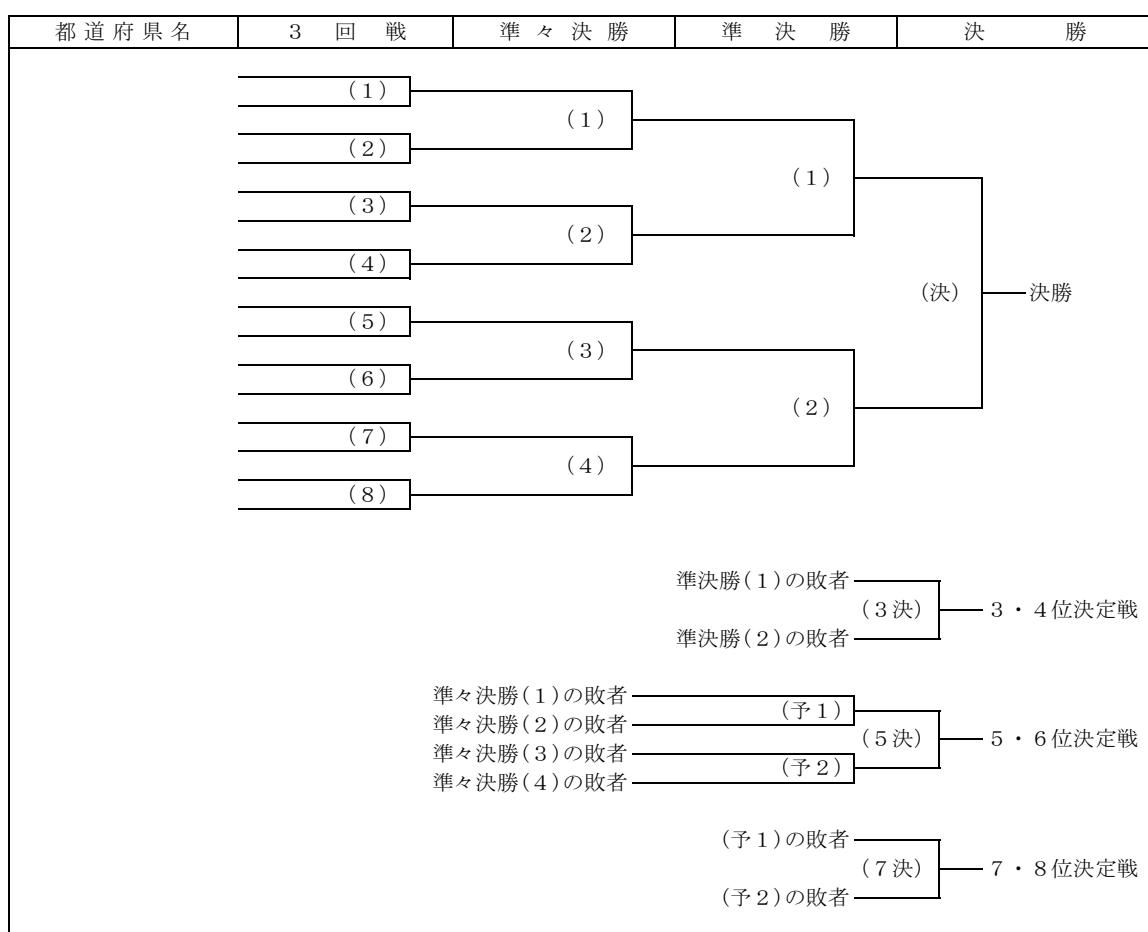
※ V：団体勝数

VI：個人勝數

TD：空数

TR：被窓数

P.L. : 順位



フェンシング競技 組合せ表

【 成 年 女 子 】 < フ ル ー レ >

1回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
岐 阜 県	1								
大 分 県	2								
栃 木 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
埼 玉 県	1								
福 井 県	2								
熊 本 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
岡 山 県	1								
京 都 府	2								
東 京 都	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
和 歌 山 県	1								
北 海 道	2								
宮 城 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
秋 田 県	1								
滋 賀 県	2								
愛 媛 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
岩 手 県	1								
香 川 県	2								
愛 知 県	3								

2回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
①	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
②	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
③	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
④	1								
	2								
	3								

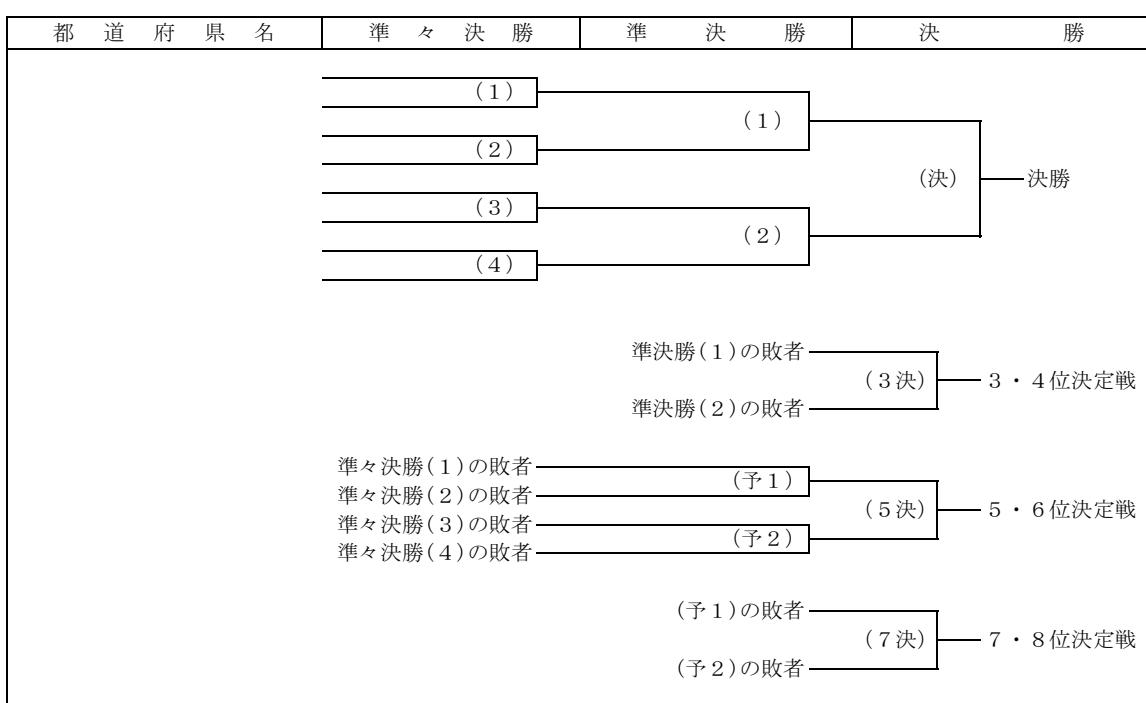
※ V : 団体勝数

VI : 個人勝数

TD : 突数

TR : 被突数

PL : 順位



フェンシング競技 組合せ表

【 少 年 男 子 】 < フ ル ー レ >

1回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
滋賀県	1								
埼玉県	2								
香川県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
熊本県	1								
神奈川県	2								
島根県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
徳島県	1								
栃木県	2								
京都府	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
福井県	1								
秋田県	2								
東京都	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
鹿児島県	1								
北海道	2								
和歌山县	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
大阪府	1								
愛知県	2								
宮城县	3								

2回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
①	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
②	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
③	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
④	1								
	2								
	3								

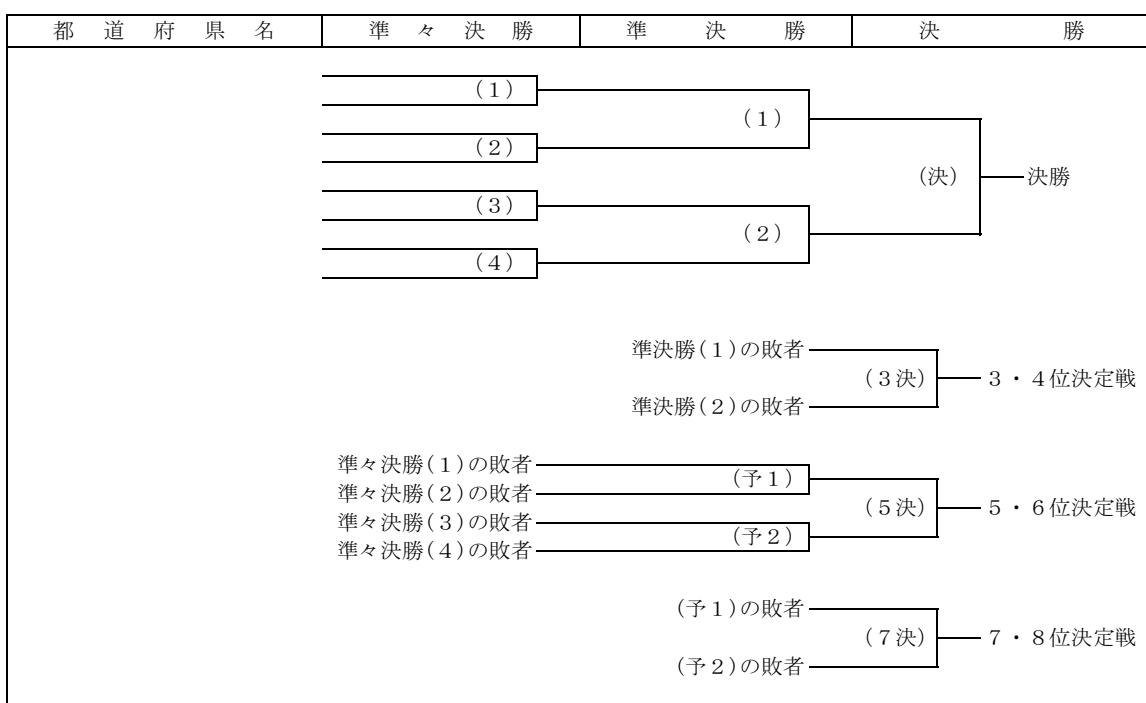
※ V : 団体勝数

VI : 個人勝数

TD : 突数

TR : 被突数

PL : 順位



フェンシング競技 組合せ表

【 少 年 女 子 】 < フ ル ー レ >

1回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
島根県	1								
京都府	2								
栃木県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
東京都	1								
和歌山县	2								
富山县	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
秋田県	1								
大分県	2								
香川県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
宮城县	1								
長野県	2								
鹿児島県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
滋賀県	1								
岐阜県	2								
北海道	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
山口県	1								
神奈川県	2								
長崎県	3								

2回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
①	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
②	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
③	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
④	1								
	2								
	3								

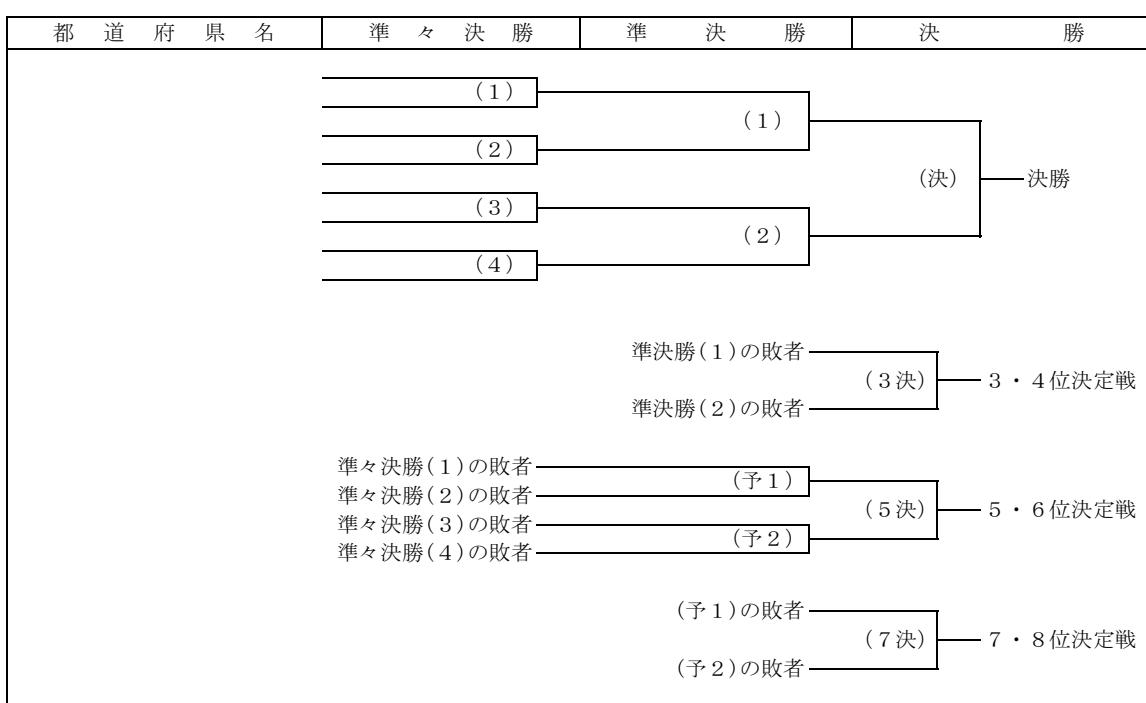
※ V : 団体勝数

VI : 個人勝数

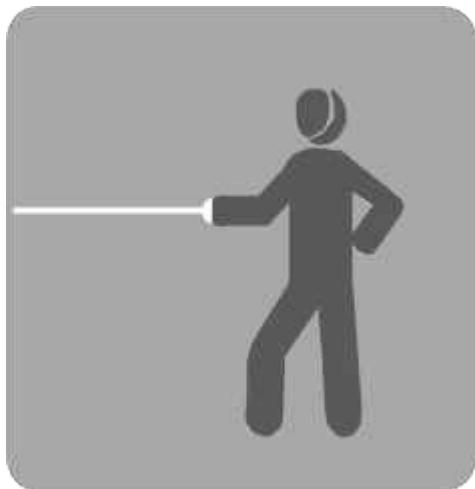
TD : 突数

TR : 被突数

PL : 順位



Epee (エペ)



全身が有効面

[剣の重さ	770 g以下]
[剣の全長	110 cm以下]
[ガードから剣先まで	90 cm以下]
[ガードの直径	13.5 cm以下]

剣先には750 gの強さのバネが入っていて、これ以上の力で突くとランプが点灯します。ラピエールという決闘用剣の流れを受け継ぎ、昔ながらの三角形の剣身を持った、風格のある形をしています。

17世紀中頃、剣先で相手を突くだけの「エペ」という剣（術）が生まれました。それ以前は「ラピエール」という、「切って」も「突いて」もよい剣が使用されていました。エペの出現以来、急速に普及し、ラピエールにとって代わる剣術となりました。

エペは、正式の決闘武器として行われたものが競技化したもので、全身（頭から爪先）どこを突いても有効となり、色ランプがつき、突いた選手に得点が入ります。しかし、電子審判器の点灯する機能に1/25秒のタイム差がセットされていて、このタイム差以内で両選手が「同時突き（Coup Double:クードゥーブル）」をすると両方の色ランプが点灯し、両選手に1ポイントずつ得点が与えられます。

全身が有効面で、また1/25秒差以内の素早い突きが要求されるため、試合運びの中に両選手の張り詰めた気迫が感じられるところがみどころといえるでしょう。

西洋の決闘では、自分の名誉を守るために行うので、相手に血を流させたら終わりです。その時、自分も血を流したら相打ちになるので、エペには相打ちの判定があるのです。

フェンシング競技 組合せ表

【 成 年 女 子 】 < エ ペ >

1回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
熊 本 県	1								
京 都 府	2								
福 井 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
岩 手 県	1								
埼 玉 県	2								
愛 媛 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
香 川 県	1								
大 分 県	2								
栃 木 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
東 京 都	1								
和 歌 山 県	2								
秋 田 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
岡 山 県	1								
滋 賀 県	2								
岐 阜 県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
愛 知 県	1								
北 海 道	2								
宮 城 県	3								

2回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
①	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
②	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
③	1								
	2								
	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
④	1								
	2								
	3								

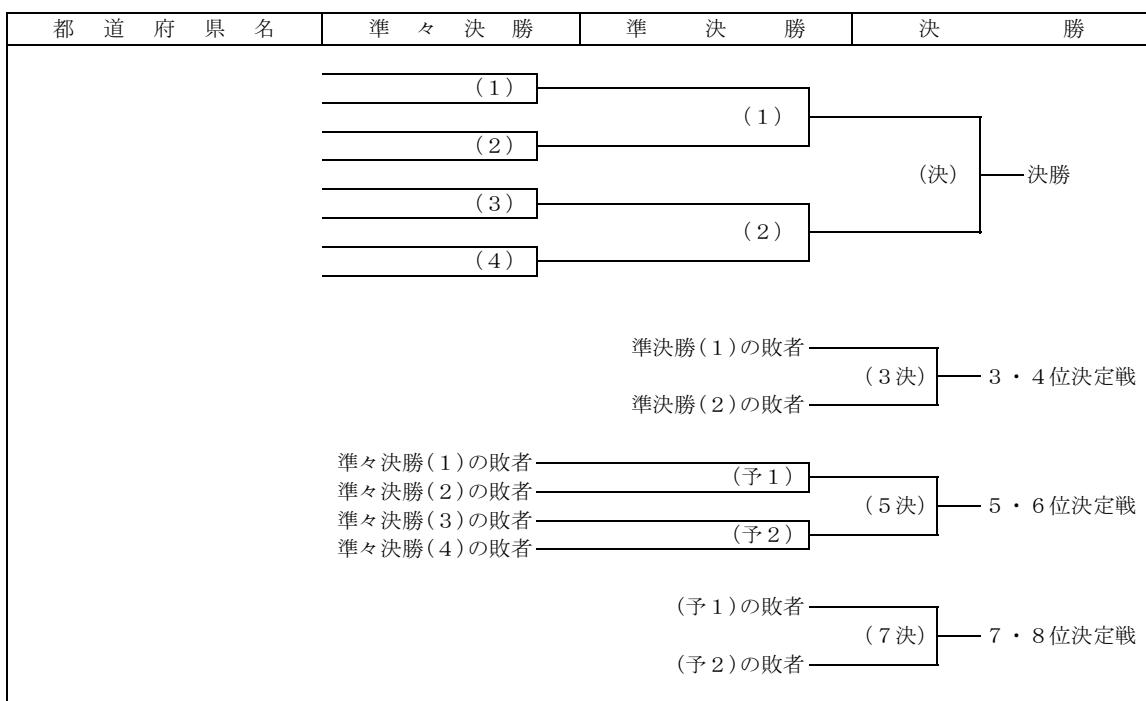
※ V : 団体勝数

VI : 個人勝数

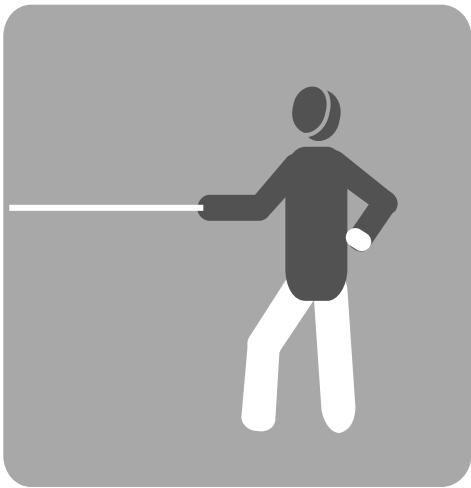
TD : 突数

TR : 被突数

PL : 順位



Sabre (サーブル)



部分が有効面

[剣の重さ	500g以下]
[剣の全長	105cm以下]
[ガードから剣先まで	88cm以下]
[ガードの直径	縦15cm以下] 横14cm以下]
[ガードの深さ	15cm以下]

剣身は扁平で刃がついており、いわゆる「みね」の部分も剣先1/3が裏刃になっていて、その「刃」の部分で切れば有効となります。

サーブルは、他の2種目とは異なり、その昔、ウラル山脈地域の騎馬民族が行っていた剣術で、9世紀に今のハンガリーに根を降ろしました。フランス等西ヨーロッパ諸国ではあまり普及しませんでしたが、馬上の剣術として19世紀にイタリアにおいて、現在見られる形式が出来あがりました。

馬上で行う軍刀術がスポーツ化したもので、他の2種目と異なり切りが主体ですが、突きもできる競技です。従来は男子だけが行っていましたが、世界選手権大会でも女子の部が開催されるようになり、2001年全日本フェンシング選手権大会（高知大会）から正式に女子の部も行われています。

サーブルにも、有効面と無効面があります。有効面は選手の腰から上の部分で、頭・両腕も含まれます。これは、昔、戦いのときに相手の馬を傷つけることを避けるために、腰から下は攻めなかつたことから来ています。

判定は、電気審判器を用いています。フルーレ同様細かな規則が決められているため、攻撃権の取り合い、防御の方法等が判定に影響します。

サーブルのおもしろさは、激しい動き、そして豪快な切り合いにあります。

フェンシング競技 組合せ表

【成年男子】 <サーブル>

1回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
東京都	1								
大分県	2								
兵庫県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
大阪府	1								
長野県	2								
鹿児島県	3								

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
香川県	1									
宮城县	2									
宮崎県	3									
愛知県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
三重県	1									
京都府	2									
石川県	3									
島根県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
北海道	1									
佐賀県	2									
愛媛県	3									
神奈川県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
福井県	1									
岡山県	2									
山梨県	3									
奈良県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
滋賀県	1									
鳥取県	2									
福島県	3									
福岡県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
熊本県	1									
岐阜県	2									
岩手県	3									
群馬県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
長崎県	1									
秋田県	2									
栃木県	3									
静岡県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
富山県	1									
埼玉県	2									
山形県	3									
高知県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
山口県	1									
茨城県	2									
青森県	3									
徳島県	4									

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR	PL
沖縄県	1									
千葉県	2									
和歌山县	3									
新潟県	4									

※ V : 団体勝数

VI : 個人勝数

TD : 突数

TR : 被突数

PL : 順位

フェンシング競技 組合せ表

【 成 年 男 子 】 < サーブル >

2回戦 (各プール2チーム上がり)

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
①	2		■						
	3			■					

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
②	2		■						
	3			■					

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
③	2		■						
	3			■					

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
④	2		■						
	3			■					

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
⑤	2		■						
	3			■					

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
⑥	2		■						
	3			■					

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
⑦	2		■						
	3			■					

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR	PL
	1	■							
⑧	2		■						
	3			■					

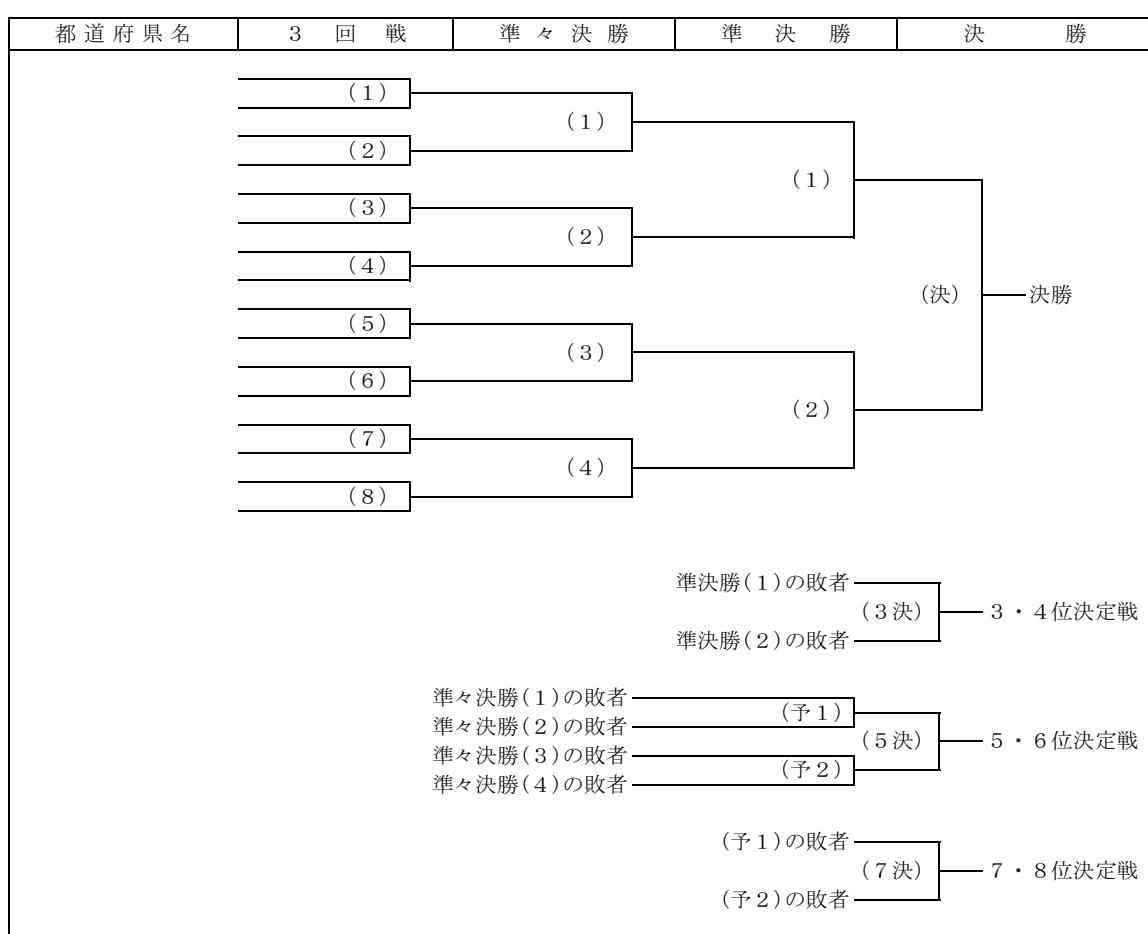
※ V : 団体勝数

VI : 個人勝数

TD : 突数

TR : 被突数

PL : 順位



フェンシング用語

一般的なことがら

1 エスクリム

フランス語でフェンシングのこと。

フェンシングでは、フランス語が公用語として使用されており、近年、英語、スペイン語も公用語に加わりました。

2 プール

リーグ形式の総当たり戦のこと。

3 マッチ

2選手間の対戦で記録を取る場合、マッチと言います。

4 ランコントル

異なるチームの選手間による対戦(チーム・マッチ)をランコントルと言います。

5 ピスト

競技用コートのこと。大会では8ピストが設置されます。(幅1.5m~2.0m、長さ14m、予備ゾーン4mを入れて計18mのピストが多い)

6 エリミナション・ディレクト

トーナメント形式の試合のこと。

7 ファイナル

決勝戦のこと。

8 ディレクトワール・テクニーケ (DT)

技術委員会のこと。

競技を実際に運営していく上の最高機関で、大会では技術委員の合議によって、試合の組合せ、競技の進行、審判員の指名、ルール上の事、ルール以外の問題などが決定されます。

9 プレジダン・ド・ジュリー

主審のこと。

主審は、マッチの前に選手の武器・服装・用具や審判器等を検査します。そして、マッチを指揮し、選手に違反があれば罰し、またマッチをフルーレ・エペ・サーブルそれぞれのルールに従って判定し、トウシュを与えます。最後にマッチの勝敗を決めます

10 アセスール

副審のこと。

決勝戦においては、主審だけでなく2名の副審が義務付けられています。武器を持っていない手や腕の使用、正当な有効面の代用、ピストの側面や後方への踏み出し、エペで床上にて得点したトウシュ、又は競技規則に規定されているその他の違反を監視します。

11 略称

V「勝ち(ビクトワール)」、D「負け(デフェット)」、TD「突数(突いた数。トウシュ・ドネ)」、TR「被突数(突かれた数。トウシュ・ルウス)」

12 バラージュ

上位進出者を決めるための決定戦のこと。

試合の中での主審の言葉について

1 サリュー

「挨拶せよ」という意味で、選手は試合の前後に相手以外に審判、観客席の方向に剣で挨拶をすることが義務付けられています。

2 アン・ガルド

試合を始めるとき主審は「アン・ガルド」(構えて)と号令をかけます。その後、「プレ?」(用意はいいか?)と聞きます。それに対して選手は「ウイ(はい)」か「ノン(いいえ)」の返答をします。選手から「ウイ」の返答があるか「ノン」の返答がない限り、主審は「アレ」と言います。意味は「始め」です。また、試合を止めるときに、主審は「アルト」と言います。意味は「止め」です。

3 トウシュ

「突き」という意味です。突きを受けた選手側に手でトウシュ(以前はトウシェ)を示します。

4 ノン

トウシュが無いこと。

5 ポアン

得点を挙げた選手側の手を上にあげて1得点を示します。

6 ノン・ヴァラブル

「無効面」の意味で、例えばフルーレで突きが無効面に入ると白ランプがつき、得点にはならず、その後の全ての突きが無効になります。

7 アタック・シミュルタネー

双方の選手が「同時に攻撃した」という意味で、フルーレとサーブルの場合は、双方に色ランプがついても得点にはなりません。ただし、エペの場合は「クー・ドゥブル」(同時突き)と言って、双方に1点ずつ得点が加算されます。

8 クー・ドゥブル

「同時にトウシュした」という意味でフルーレ、サーブルではルールに基づいてどちらに優先権があるか判定します。エペでは双方に1点ずつ得点が加算されます。

9 リニュ

フルーレ・サーブルでポアンが相手の有効面を脅かしている状態。攻撃者が攻撃する時はあらかじめ相手の剣を排除してから始めなければなりません。以前はポアント・アン・リニュー、その前はアン・リニューといっていました。

10 パド・トウシュ

「両者に得点になるトウシュが無いことを意味します。

11 シエル・ラ・プレパラシオン

アタック側の準備動作中になされた相手のアタックやアレの動作。審判は腕を曲げた動作で(以前のノン・コレクト)表します。

12 コル・ア・コル

「身体と身体が接触した」という意味で、フルーレ・サーブルでは、試合を止めなければなりません。また、暴力や乱暴な行為がなければ、違反にも罰則にもなりません。

13 パラード

相手の攻撃を剣で防衛すること。その後の動作を無効にするためには腕を引くことなく、直ちに行わねばなりません。

14 リポスト

パラードに次ぐ攻撃のこと。

15 アヴァン・タレ

「始めの合図の前に起こした動作」という意味で、たとえトウシュが入ったとしても得点にはならず、無効になります。

16 アプレ・アルト

「止めの合図の後に起こした動作」という意味で、たとえトウシュが入ったとしても得点にはならず、無効になります。

17 ヴァンカー

「勝利者」という意味で、試合が終了すると審判が勝利した方の選手に向けて、手を挙げてヴァンカーと勝利者を決定しスコアを言います。

審判員のジェスチャーと号令



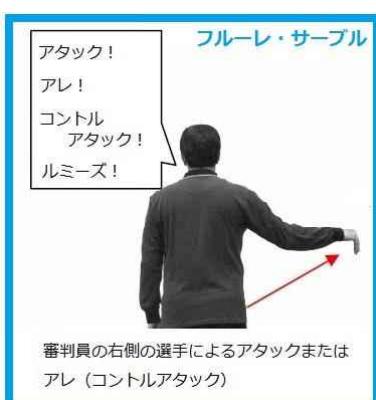
選手にアン・ガルドのポジションを
とらせるために

選手が準備ができているか知るために

試合を開始または再開させるために



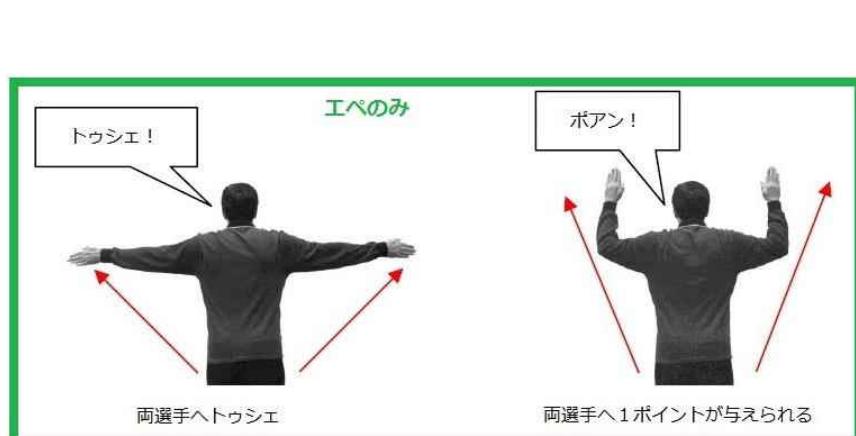
審判員の右側の選手が原因でトウシユ前に試合を止めるため
有効面または無効面にトウシユがあった場合は手を挙げずに
号令のみ

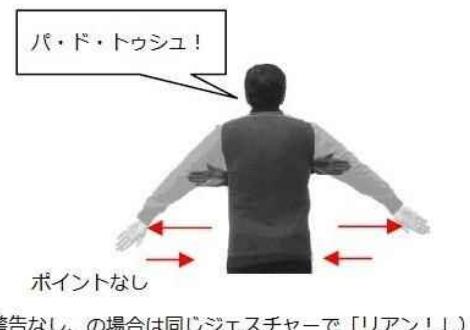
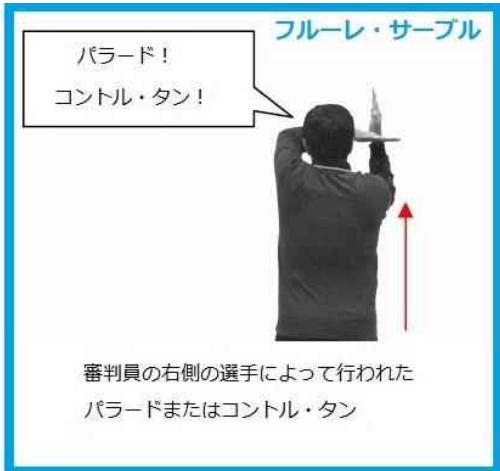


審判員の左側にいる選手が
トウシユを宣言される



審判員の右側にいる選手に
1ポイントが与えられる





注記：

- (1) 審判員はフラーズ・ダルムを分析し、上記のジェスチャーと用語で判定を告げる。
- (2) フラーズ・ダルムに従い、審判員はジェスチャーを伴わずに「リポスト」「コントル・リポスト」の用語を使用する。「アタック」のジェスチャーは「ルミーズ」「ルブリーズ」「ルドゥルブマン」にも使用する。
- (3) 選手は審判員に対し礼儀正しい態度で、フラーズ・ダルムのより完全な分析を求めることができる。
- (4) 各ジェスチャーは一定時間（1秒～2秒）持続され、かつ正確に行われなければならない。ここで示されているジェスチャーは審判員の右側にいる選手を対象としている。

都道府県別参加人数一覧表

地区	番号	都道府県	成年男子		成年女子		少年男子		少年女子		合計		総計	
			監督		選手		監督		選手		監督			
			専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任	専任	兼任		
北	1	北海道	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
東北	2	青森県	(1)	3								(1)	3	3
	3	岩手県	(1)	3	(1)	3						(2)	6	6
	4	宮城県	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	5	秋田県	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	6	山形県	(1)	3								(1)	3	3
	7	福島県	(1)	3								(1)	3	3
関東	8	茨城県	(1)	3								(1)	3	3
	9	栃木県	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	10	群馬県	(1)	3								(1)	3	3
	11	埼玉県	(1)	3	(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
	12	千葉県	(1)	3								(1)	3	3
	13	東京都	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	14	神奈川県	(1)	3			1	3	1	3	2	(1)	9	11
	15	山梨県	(1)	3								(1)	3	3
北信越	16	新潟県	(1)	3								(1)	3	3
	17	長野県	(1)	3					1	3	1	(1)	6	7
	18	富山県	(1)	3					1	3	1	(1)	6	7
	19	石川県	(1)	3								(1)	3	3
	20	福井県	(1)	3	(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
東海	21	静岡県	(1)	3								(1)	3	3
	22	愛知県	(1)	3	(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
	23	三重県	(1)	3								(1)	3	3
	24	岐阜県	(1)	3	(1)	3			1	3	1	(2)	9	10
近畿	25	滋賀県	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	26	京都府	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	27	大阪府	(1)	3			1	3			1	(1)	6	7
	28	兵庫県	(1)	3								(1)	3	3
	29	奈良県	(1)	3								(1)	3	3
	30	和歌山县	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
中国	31	鳥取県	(1)	3								(1)	3	3
	32	島根県	(1)	3			1	3	1	3	2	(1)	9	11
	33	岡山県	(1)	3	(1)	3						(2)	6	6
	34	広島県	()									()		
	35	山口県	(1)	3					1	3	1	(1)	6	7
四国	36	香川県	(1)	3	(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	37	徳島県	(1)	3			1	3			1	(1)	6	7
	38	愛媛県	(1)	3	(1)	3						(2)	6	6
	39	高知県	(1)	3								(1)	3	3
九州	40	福岡県	(1)	3								(1)	3	3
	41	佐賀県	(1)	3								(1)	3	3
	42	長崎県	(1)	3					1	3	1	(1)	6	7
	43	熊本県	(1)	3	(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
	44	大分県	(1)	3	(1)	3			1	3	1	(2)	9	10
	45	宮崎県	(1)	3								(1)	3	3
	46	鹿児島県	(1)	3			1	3	1	3	2	(1)	9	11
	47	沖縄県	(1)	3								(1)	3	3
合計			(46)	138	(18)	54	18	54	18	54	36	(64)	300	336

※ 選手兼任監督の人数は、監督の「兼任」欄に記入し、選手数としてカウントする。

参加監督・選手一覧表

成年男子							
番号	都道府県	ゼッケン	監督/兼任	ゼッケン	選手	ゼッケン	選手
1	北海道	1011	阿部 陽馬	1012	山 直 崇	1013	水 牧 拓 夢
2	青森県	1021	坪 鳩 馬	1022	菅 谷 優 斗	1023	林 祥 蓮
3	岩手県	1031	小岩 聖 那	1032	福 田 悠 雅	1033	阿 部 大 雅
4	宮城県	1041	齋 藤 有	1042	前 河 佑 澄	1043	清 原 崇 史
5	秋田県	1051	大 塚 昂 輝	1052	安 部 慶 輝	1053	松 渥 真 平
6	山形県	1061	青 柳 雄 大	1062	庄 司 圭 佑	1063	岡 村 怜 音
7	福島県	1071	高 橋 恋	1072	佐 藤 篤 志	1073	渡 部 侑 磨
8	茨城県	1081	山 田 森 太 郎	1082	永 野 雄 大	1083	見 目 宏 介
9	栃木県	1091	大 橋 亮 介	1092	土 澤 悠 貴	1093	京 極 光 志
10	群馬県	1101	小 林 勇 気	1102	金 井 一 馬	1103	木 村 珊 瑩
11	埼玉県	1111	増 田 光	1112	橋 本 祥 英	1113	橋 本 雄 健
12	千葉県	1121	江 川 鳩 一	1122	蘭 田 嶺 太	1123	曾 我 啓 介
13	東京都	1131	吉 田 健 人	1132	白 井 寛 夢	1133	松 永 健 吾
14	神奈川県	1141	高 橋 優 作	1142	茶 野 友 秋	1143	伊 藤 遼 志
15	山梨県	1151	志 村 好 宣	1152	石 川 凌 雅	1153	柳 本 瞳 稀
16	新潟県	1161	平 野 良 樹	1162	稻 垣 恵 人	1163	渡 邊 天 汰
17	長野県	1171	根 橋 大 空	1172	中 村 健 人	1173	西 藤 俊 哉
18	富山县	1181	田 辺 空 我	1182	藤 野 正 真	1183	前 田 純 成
19	石川県	1191	竹 内 凱	1192	太 田 匡 哉	1193	和 住 壮 馬
20	福井県	1201	徳 南 堅 太	1202	丹 代 翔	1203	中 内 鳩 真
21	静岡県	1211	齋 藤 明 輝	1212	平 櫛 征 人	1213	渡 邊 英 向
22	愛知県	1221	太 田 拓 輝	1222	河 村 一 摩	1223	林 川 琉 健
23	三重県	1231	柏 木 慈 理	1232	小 久 保 遥 斗	1233	池 畑 栄 祐
24	岐阜県	1241	鈴 村 健 太	1242	馬 場 俊 輔	1243	福 田 亮 介
25	滋賀県	1251	江 村 凌 平	1252	中 力 亮	1253	加 藤 韶
26	京都府	1261	田 中 風 舞	1262	飯 村 一 輝	1263	菊 元 雪
27	大阪府	1271	辻 中 悠 真	1272	藤 田 隼 輔	1273	竹 本 大 朗
28	兵庫県	1281	近 藤 辰 弥	1282	福 井 秀 明	1283	山 根 鳩 人
29	奈良県	1291	川 畑 友 博	1292	羽 田 康 孝	1293	難 波 貴 文
30	和歌山县	1301	松 村 侑 馬	1302	西 口 泰 嵩	1303	井 川 晃 晉
31	鳥取県	1311	大 阪 立	1312	小 西 玄 泰	1313	中 村 鳩 汰
32	島根県	1321	小 谷 太 洋	1322	津 森 志 道	1323	伊 藤 綾 将
33	岡山县	1331	難 波 憲 士 郎	1332	横 山 陸	1333	竹 内 隆 晟
34	広島県	1341		1342		1343	
35	山口県	1351	菊 池 正 太 郎	1352	柏 原 翔 太	1353	堀 部 聖 太
36	香川県	1361	松 浦 碧 也	1362	石 橋 臣 都	1363	阿 南 一 真
37	徳島県	1371	伊 勢 碧	1372	平 岡 弘 之 介	1373	森 下 創 太
38	愛媛県	1381	新 田 涼 平	1382	大 村 尚 土	1383	板 橋 央
39	高知県	1391	山 本 純 士	1392	尾 崎 史 龍	1393	尾 崎 勇 飛
40	福岡県	1401	村 岡 聰 丞	1402	大 村 貴 之	1403	佐 藤 悠 雅
41	佐賀県	1411	古 田 育 男	1412	山 田 優	1413	品 川 聖 也
42	長崎県	1421	永 松 泰 樹	1422	新 宮 直 将	1423	船 木 陽 斗
43	熊本県	1431	太 田 健 二	1432	道 脇 啓 太	1433	船 本 誠 志 郎
44	大分県	1441	中 村 太 郎	1442	大 石 利 樹	1443	上 野 優 斗
45	宮崎県	1451	樋 渡 怜 大	1452	小 久 保 真 旺	1453	木 村 友 哉
46	鹿児島県	1461	野 島 里 玖	1462	永 田 航	1463	古 川 昊
47	沖縄県	1471	伊 良 波 幸 弥	1472	田 村 優 治	1473	嘉 手 川 重 吾

9月11日時点

成年女子								
番号	都道府県	ゼッケン	監督/兼任	ゼッケン	選手	ゼッケン	選手	
1	北海道	2011	神山天音	2012	井下玲菜	2013	松原花那	
2	岩手県	2031	千葉朱夏	2032	日向涼葉	2033	千葉穂波	
3	宮城县	2041	狩野愛巳	2042	狩野央梨沙	2043	吉田ひなた	
4	秋田県	2051	高橋風子	2052	成田実礼	2053	佐藤めるしい	
5	栃木県	2091	國谷優奈	2092	大西愛	2093	中西凜	
6	埼玉県	2111	小野瑞葵	2112	篠島優衣	2113	唐澤茉杏	
7	東京都	2131	久保田未来乃	2132	沼田美咲	2133	久保田未織乃	
8	福井県	2201	佐藤希望	2202	高原真央	2203	渡邊紗都	
9	愛知県	2221	千葉圭	2222	山田ひなた	2223	長谷川乃愛	
10	岐阜県	2241	辻すみれ	2242	馬場晴菜	2243	長瀬凜乃	
11	滋賀県	2251	中村優里	2252	吉村美穂	2253	稻山友梨	
12	京都府	2261	竹澤志緒里	2262	竹山柚葉	2263	竹山夏芽	
13	和歌山县	2301	福塚世帆	2302	岩本鈴菜	2303	稻田棕	
14	岡山县	2331	田上桂子	2332	増田杏心	2333	石川愛実	
15	香川県	2361	蓮井陽菜	2362	後藤千里	2363	三好知里	
16	愛媛県	2381	高橋ひかり	2382	登尾奈友	2383	飛鷹心那	
17	熊本県	2431	森美奈子	2432	菊池小巻	2433	中山真希	
18	大分県	2441	小田みはる	2442	足立悠	2443	竹内花菜子	

少年男子								
番号	都道府県	監督	ゼッケン	選手	ゼッケン	選手	ゼッケン	選手
1	北海道	稻田希美	3011	荒尾尚麻	3012	阿部磨郁	3013	光川真生
2	宮城县	千田康太	3041	宮井彬成	3042	安保昇汰	3043	高橋春翔
3	秋田県	松井公章	3051	津谷龍星	3052	板橋心大	3053	藤田真惺
4	栃木県	萩原宏樹	3091	川村龍紅	3092	安達奏人	3093	中浦秀哲
5	埼玉県	小島正也	3111	鈴木哲矢	3112	中尾豪太	3113	高橋麗人
6	東京都	田中新吾	3131	田中拓進	3132	小笠原心	3133	土田悠人
7	神奈川県	濱野理	3141	幸田朋優	3142	前田将志	3143	田代圭
8	福井県	諸江昭嗣	3201	酒井琢武	3202	安達健悟	3203	田中陸
9	愛知県	畠中弘樹	3221	西村健也	3222	田中遼大	3223	室星雅
10	滋賀県	畠中文明	3251	山本篤治	3252	加納佑真	3253	小野一真
11	京都府	池端花奈恵	3261	小野凌駕	3262	村上日陽	3263	飯村要
12	大阪府	好川裕士	3271	杉本悠樹	3272	渡辺裕	3273	和田泰成
13	和歌山县	九野桃佳	3301	横田和馬	3302	垣本篤志	3303	吉田侑世
14	島根県	渡辺大介	3321	村田煌冴	3322	中尾太一	3323	柏井夢希
15	香川県	國金直剛	3361	後藤正人	3362	奥山墨	3363	川巧汰
16	徳島県	仁木将之	3371	高畠健	3372	本田悠一朗	3373	太田幸輝
17	熊本県	松崎裕子	3431	今村凜太郎	3432	河津来唯夢	3433	河津亞斗夢
18	鹿児島県	東裕二	3461	白男川瞬	3462	安武龍杜	3463	村田碧翔

少年女子								
番号	都道府県	監督	ゼッケン	選手	ゼッケン	選手	ゼッケン	選手
1	北海道	雨尾保典	4011	井下愛莉	4012	雨尾七心	4013	光川真永
2	宮城県	池田景	4041	由利弥琴	4042	臼井莉紗	4043	井出とうこ
3	秋田県	酒井さゆり	4051	成田和叶	4052	土佐優奈	4053	松渕彩花
4	栃木県	春山正幸	4091	柏谷優月	4092	菊池舞衣	4093	土澤悠月
5	東京都	馬場絢子	4131	谷村星奈	4132	白石瑠花	4133	周知愛
6	神奈川県	桐山充	4141	杉江莉々香	4142	東平沙希	4143	高橋梨桜
7	長野県	唐澤千夏	4171	縣ほのか	4172	春田友菜	4173	春田心音
8	富山県	藤野真寛	4181	前田凜々子	4182	西野光桜	4183	佐藤楓
9	岐阜県	市ヶ谷廣輝	4241	村瀬あかり	4242	加藤璃紗	4243	市ヶ谷奈々
10	滋賀県	矢幡侑菜	4251	畠中七葉	4252	南原莉緒	4253	上品かのこ
11	京都府	西村拓也	4261	清水菜乃	4262	今村文音	4263	熊本詩乃
12	和歌山县	後藤真徳	4301	鶴本翠	4302	新田美亞紀	4303	金丸依央
13	島根県	金津義彦	4321	松本希未	4322	高橋めいさ	4323	仙田瑚々
14	山口県	越水裕亮	4351	古賀万結	4352	七五三心夏	4353	竹重咲晴
15	香川県	高木大輔	4361	高木優希	4362	山畠花乃子	4363	西村ひまり
16	長崎県	土橋和真	4421	佐藤光恵	4422	山口麗愛	4423	林田優華
17	大分県	佐藤麻依子	4441	岡田風花	4442	西山花桜	4443	石川愛瑚
18	鹿児島県	大坪昭仁	4461	桐木平乃愛	4462	萱島朝香	4463	渡邊文珂

9月11日時点

総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競 技 得 点
成年男子	成年女子	各種目とも 1位 24点、2位 21点、3位 18点、4位 15点、5位 12点、6位 9点、7位 6点、8位 3点の競技得点を与える。
成年女子	成年女子	
少年男子	少年女子	
少年女子	少年女子	

(2) 参加得点

大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に10点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

表 彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績第1位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 少年男子、少年女子の各種別及び成年男子・成年女子の各種目の第1位から第8位までに、賞状を授与する。

栄光の記録 国民体育大会・国民スポーツ大会年次別成績表一覧

種別	大会名 種目／開催地		第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回
	東京	愛知	広島	福島	愛媛	北海道	神奈川	兵庫	静岡	富山	東京	熊本	秋田	京都	神奈川
総合											東京	神奈川	京都	神奈川	
一般男子団体	フルーレ エペ サーブル	東京 東京 東京	京都 東京 千葉	東京 東京 千葉	福島 神奈川 福島	東京 静岡 千葉	埼玉 京都 福島	神奈川 神奈川 群馬	福島 東京 山梨	福島 東京 静岡				東京	神奈川
一般男子個人	フルーレ エペ サーブル	(宮城) (東京) (東京)	(中島 英一 中村 栄太郎)	(東京) (池内 一郎 池内 一郎)	(佐賀) (内山 茂)	(福島) (遠藤 国一郎)	(千葉) (織田 毅)	(東京) (廣瀬 康夫)			(東京) (船水 光行)	(宮城) (千葉 卓朗)	(京都) (田淵 和彥)	(京都) (田淵 和彥)	(京都) (山梨) (奥秋 和彥)
女子子	フルーレ	(東京) 鈴木 君子	(京都) 太田 香苗	(東京) 飯田 美枝子	(東京) 鈴木 君子	(東京) 白井 宗光	(東京) 白井 宗光	(東京) 新田 達子	東京	(東京) 新田 達子	(宮城) 吉野 美賀子	(東京) 竹内 由江	(宮城) 大和田 智子	(宮城) 大和田 智子	(愛知) 神谷 宣子
高校校体	フルーレ			(宮城) 仙台 高校	(京都) 洛陽 高校	(東京) 明治 高校	宮城 チーム	愛知							
高校個人				(宮城) 石橋 和夫	(千葉) 柏木 啓介	(神奈川) 山本 基寛	(神奈川) 藤原 悦馬		(愛知) 榎原 勇一	(愛知) 山口 剛志	(愛知) 長繩 文男	(京都) 林 涼一 (神奈川) 内畠 礼子	(神奈川) 伊藤 輝男 (富山) 保井 多美子	(東京) 土井 章 (宮城) 神馬 加寿子	
種別	大会名 種目／開催地		第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回
総合	岡山 愛知 神奈川	山口 神奈川・山口	新潟	岐阜	大分	埼玉	福井	長崎	岩手	和歌山	鹿児島	千葉	茨城		
男子団体	フルーレ エペ サーブル	愛知 北海道 神奈川	山口 北海道 神奈川	岐阜 東京	東京	東京	東京	東京	東京	和歌山	愛知	東京	茨城東京		
女子子	フルーレ	東京	宮城	宮城	北海道	東京	東京	愛知	東京	岐阜	秋田	秋田	東京	秋田	
高校	フルーレ	愛知	愛知	愛知	福井	宮城	東京	福井	秋田	秋田	和歌山	大坂	東京	秋田	
種別	大会名 種目／開催地		第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回	第40回	第41回	第42回
総合	三重 秋田	佐賀 秋田	青森 東京	長野 秋田	宮崎 秋田	福島 秋田	滋賀 秋田	島根 滋賀	群馬 群馬	奈良 奈良	鳥取 鳥取	山梨	沖縄		
成年男子	フルーレ エペ サーブル	福井 三重 東京	群馬 北海道 東京	福井 山口	千葉 岐玉	福井 岐玉	青森 岐玉	滋賀 岐玉	群馬 群馬	秋田 秋田	山梨 山梨	山梨	和歌山		
成年女子	フルーレ	秋田	東京	東京	和歌山	東京	千葉	和歌山	和歌山	和歌山	奈良	和歌山	山梨	和歌山	
少年男子	フルーレ	茨城	宮城	秋田	長野	秋田	鹿児島	宮城	鹿児島	千葉	岐玉	秋田	群馬		
少年女子	フルーレ	秋田	秋田	長崎	秋田	秋田	栃木	秋田	東京	東京	宮城	岐阜	秋田	東京	
種別	大会名 種目／開催地		第43回	第44回	第45回	第46回	第47回	第48回	第49回	第50回	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回
総合	京都 和歌山	北海道 和歌山	福岡	石川	山形	香川	愛知	福島	広島	大阪	神奈川	熊本	富山		
成年男子	フルーレ エペ サーブル	山梨 京都 東京	山梨 和歌山	和歌山	石川	岐阜	和歌山	和歌山	福島	大分	大分	鹿児島	岐阜	和歌山	
成年女子	フルーレ	東京	秋田	石川	石川	和歌山	香川	山梨	和歌山	大分	東京	山形	和歌山	和歌山	
少年男子	フルーレ	秋田	岐阜	群馬	和歌山	岐阜	山形	和歌山	富山	和歌山	大坂	山梨	大阪		
少年女子	フルーレ	埼玉	和歌山	和歌山	岐阜	香川	栃木	岐阜	香川	大分	鹿児島	山形	岐阜		
種別	大会名 種目／開催地		第56回	第57回	第58回	第59回	第60回	第61回	第62回	第63回	第64回	第65回	第66回	第67回	第68回
総合	宮城 大分	高知 秋田	静岡 岐阜	埼玉 大分	岡山	兵庫	秋田	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京		
成年男子	フルーレ エペ サーブル	京都 東京	和歌山 和歌山	和歌山	石川	岐阜	和歌山	和歌山	福島	大分	大分	鹿児島	岐阜	東京	
成年女子	フルーレ エペ サーブル	大阪 東京	大阪 東京	宮城	埼玉	山形	宮城	香川	京都	和歌山	熊本	秋田	埼玉	新潟	
少年男子	フルーレ サーブル	青森 群馬	秋田 宮城	神奈川 福井	神奈川 和歌山	東京	京都	京都	和歌山	群馬	京都	大阪	和歌山	和歌山	
少年女子	フルーレ サーブル	群馬 東京	宮城 東京	福井	和歌山	和歌山	和歌山	富山	岐阜	香川	大分	鹿児島	山形	岐阜	

栄光の記録 国民体育大会・国民スポーツ大会年次別成績表一覧

種別	大会名 種目／開催地	第69回	第70回	第71回	第72回	第73回	第74回	第75回	第76回	第77回	特別	第78回	第79回	第80回
		長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島	三重	栃木	鹿児島	佐賀	滋賀	青森
総合		大分	東京	岐阜	東京	岐阜	岐阜	延期	中止	京都	秋田	東京・京都		
成年男子	フルーレ	大分	東京	岩手	岩手	秋田	秋田				大分	大分	大分	
	エペ		群馬			大分		三重					神奈川	
	サーブル	東京		東京		福井					三重	東京		
成年女子	フルーレ	大阪	熊本	熊本	岐阜	東京	和歌山				和歌山	京都	岐阜	
	エペ	大分		宮城		福井					京都	福井		
	サーブル		東京		大阪		鹿児島						佐賀	
少年男子	フルーレ	東京	岐阜	岐阜	大分	神奈川	岐阜			京都	神奈川	埼玉		
少年女子	フルーレ	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	京都	京都			東京	東京	京都		
種別	大会名 種目／開催地	第81回	第82回	第83回	第84回	第85回	第86回	第87回	第88回	第89回	第90回	第91回	第92回	第93回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													
種別	大会名 種目／開催地	第94回	第95回	第96回	第97回	第98回	第99回	第100回	第101回	第102回	第103回	第104回	第105回	第106回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													
種別	大会名 種目／開催地	第107回	第108回	第109回	第110回	第111回	第112回	第113回	第114回	第115回	第116回	第117回	第118回	第119回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													
種別	大会名 種目／開催地	第120回	第121回	第122回	第123回	第124回	第125回	第126回	第127回	第128回	第129回	第130回	第131回	第132回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													

関係機関連絡先一覧

◆わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局

名称	所在地	電話番号
大会総務課	大津市石場10番53号	077-528-2919

◆会場

名称	所在地	電話番号
ウカルちゃんアリーナ (滋賀県立体育館)	滋賀県大津市におの浜四丁目2番12号	077-524-0221

◆警察・消防署等

名称	所在地	電話番号
大津警察署	大津市打出浜12番7号	077-522-1234
大津市消防局	大津市御陵町3番1号	077-522-0119
大津市消防局 中消防署	大津市皇子が丘三丁目2番1号	077-525-0119
大津市保健所	大津市浜大津四丁目1番1号 明日都浜大津1階	077-522-6756

◆医療

分類	名称	アクセス方法	二次元コード
近隣医療機関	医療情報ネット (ナビイ)	右記二次元コードまたは、 「医療情報ネット (ナビイ)」で検索	

◆タクシー事業者(※)

名称	所在地	電話番号
大津第一交通株式会社	大津市柳が崎5番8号	0120-524-447 077-524-4000
滋賀ヤサカ自動車株式会社	大津市湖城が丘6番11号	077-522-6767
琵琶湖タクシー株式会社	大津市におの浜四丁目6番28号	077-522-6677
有限会社共立タクシー	大津市比叡辻二丁目4番31号	077-579-2278
有限会社湖西交通	大津市坂本七丁目33番6号	077-577-1760

※一般社団法人滋賀県タクシー協会会員事業者で、本社所在地が大津市内にある事業者

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会(滋賀県)へのお問合せ

コールセンター：0120-550-882

開設期間：9月1日(月)～10月31日(金)まで(9:00～18:00)

競技会場図

競技会場周辺



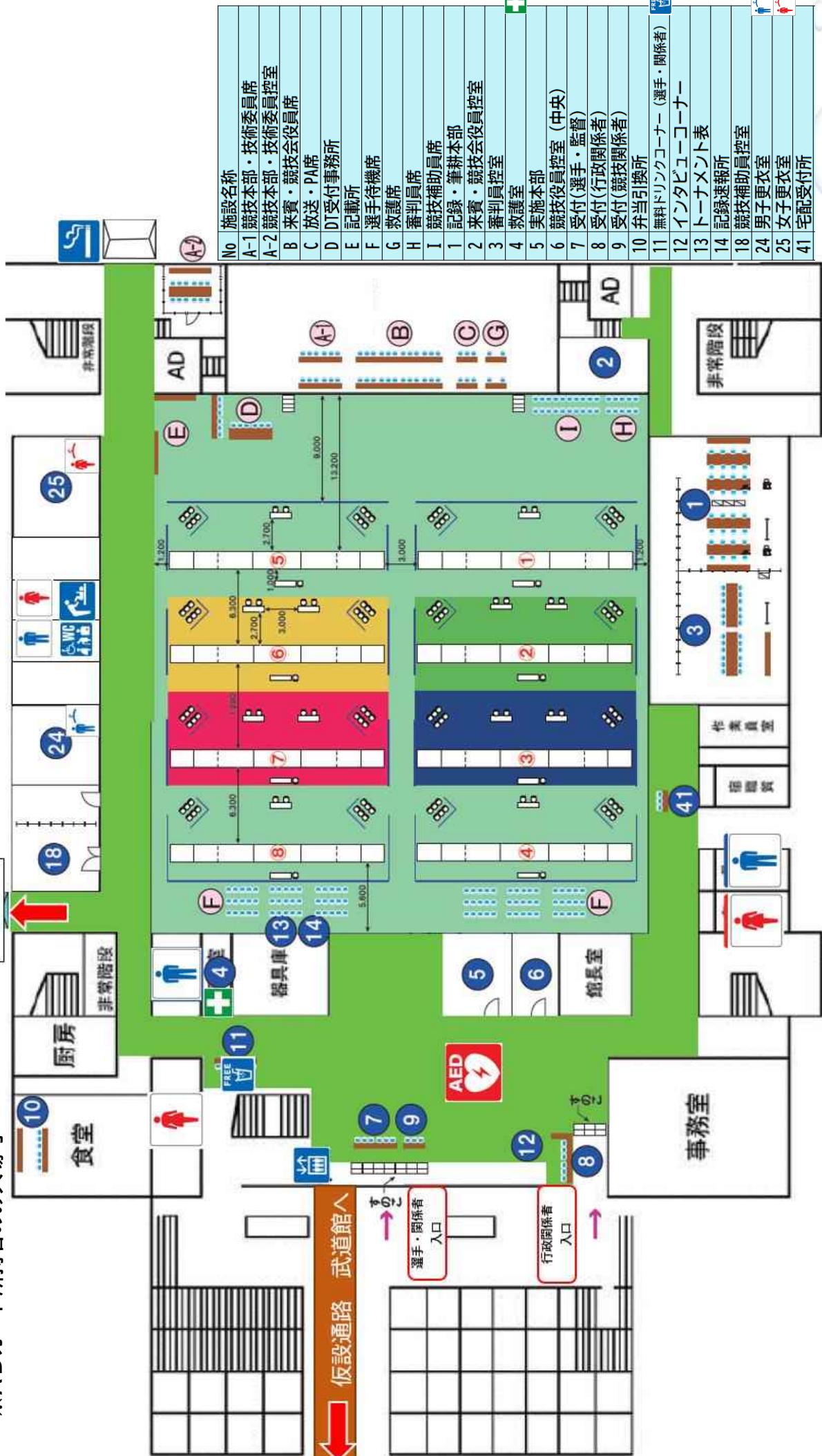
凡例



競技会場 1F

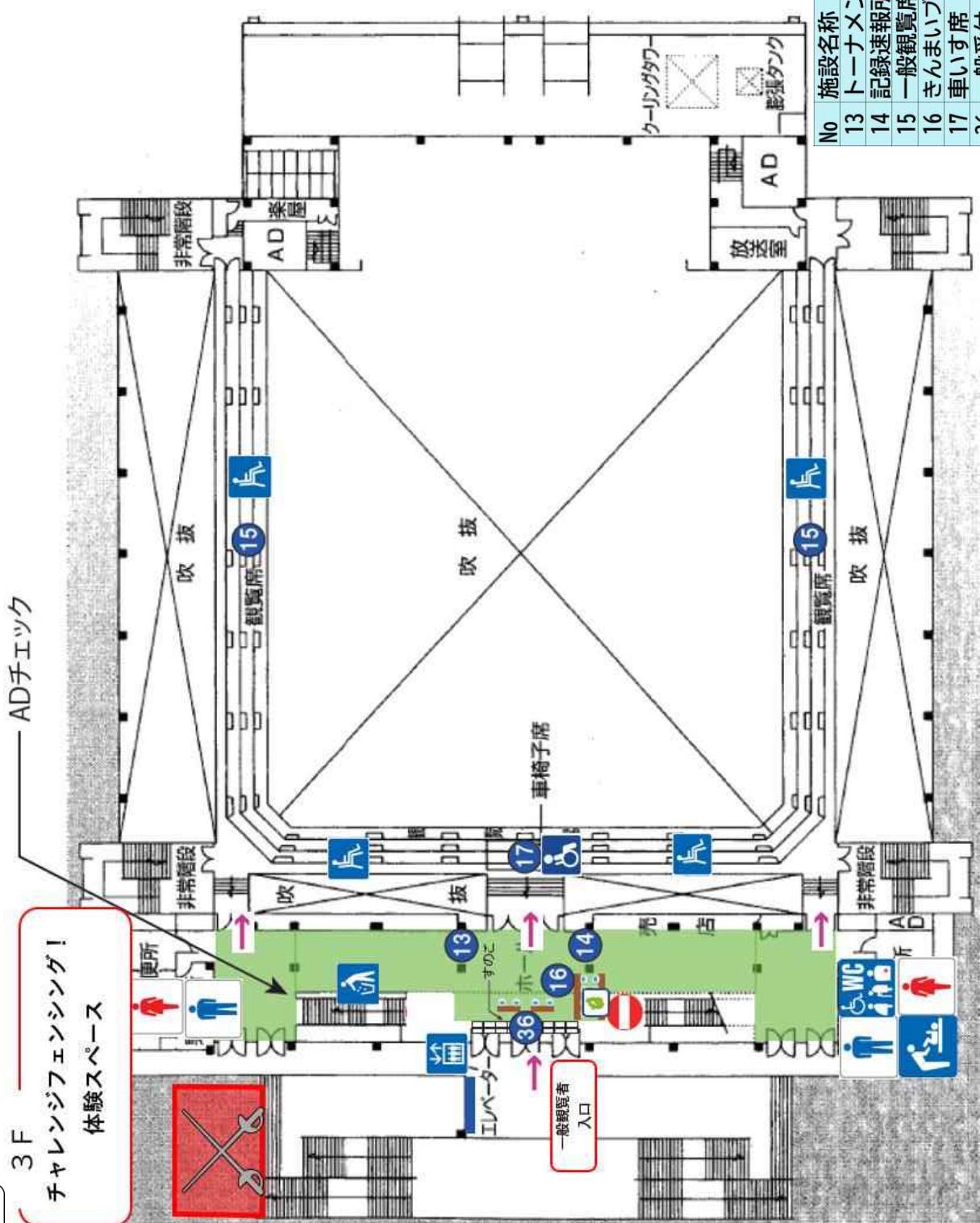
※ADカード所持者のみ入場可

別館へ



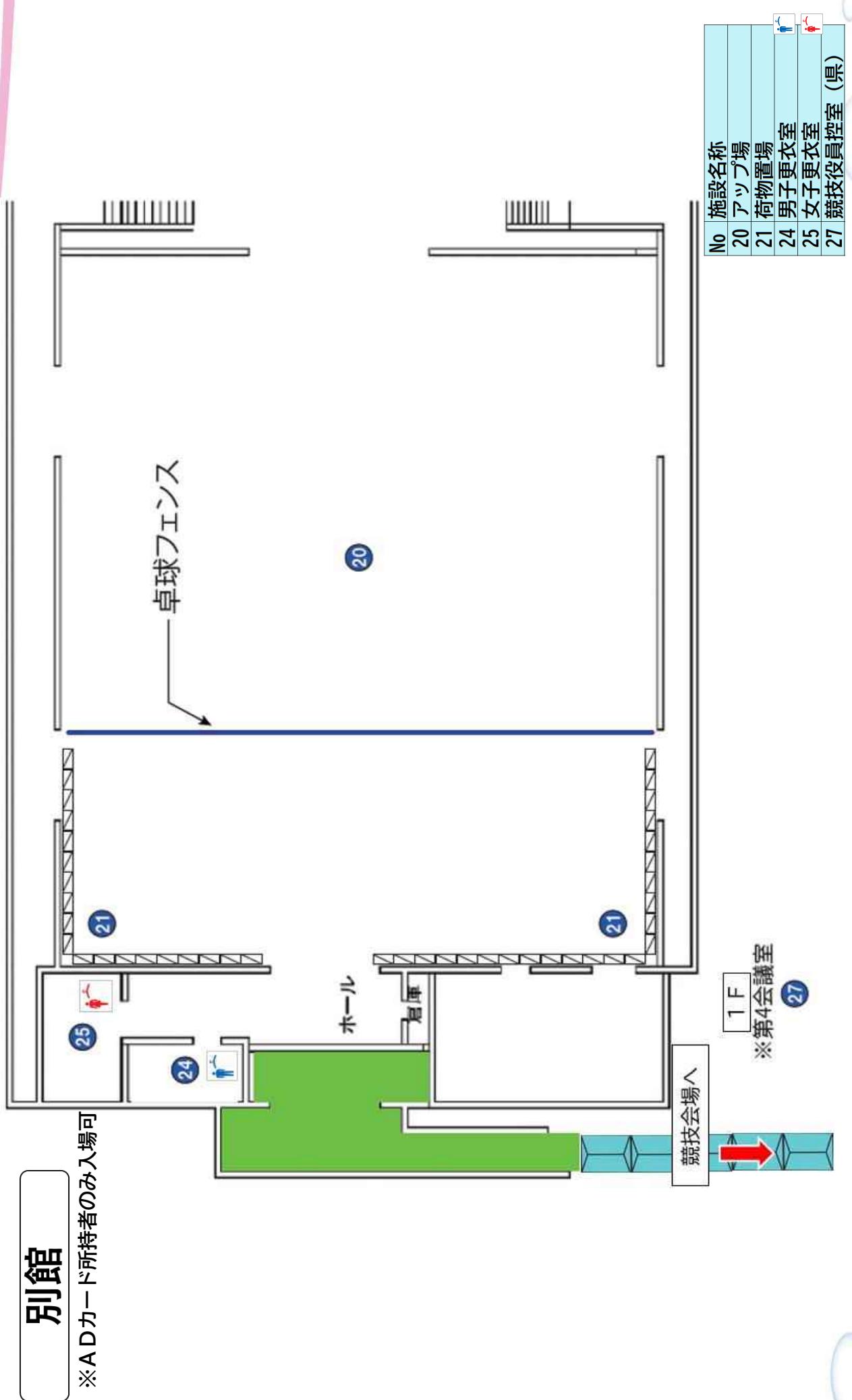
競技会場 2F

3F チャレンジフェンシング!
体験スペース!



No	施設名称
13	トイレメント表
14	記録速報所
15	一般観覧席
16	きんまいベース (PR ブース)
17	車いす席
36	一般受付





滋賀県立武道館

※ADカード所持者のみ入場可



カームダウン
スペース



→ 仮設通路 競技会場へ

湖国の感動 未来へつなぐ



わたしたちSHIGA 輝く国スポーツ

第14回国民スポーツ大會・第24回全日本拳雪著スボーツ大會

競技会場案内図



◆会場へのアクセス

電車

JR 琵琶湖線 <膳所駅> から・・・徒歩約 15 分

京阪電車 <京阪膳所駅> から・・・徒歩約 15 分

バス

JR 琵琶湖線 <大津駅> から湖岸線 <馬場一丁目県立体育館前> ・・・徒歩約 5 分



スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。



Otsuka 大塚製薬



MIZUNO

三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ 時事通信



スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。
指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こります。



Japanese
Olympic
Committee



『スポハラ』根絶に向けた取組み



NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント

(暴力・暴言・ハラスメントなど) に、

みんなが『NO !』と言う社会を目指して



スポーツにおける暴力行為等相談窓口

相談員



どなたでもご利用可能!

お気軽にご相談ください

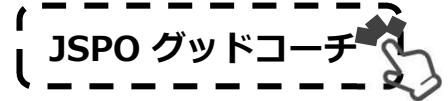
スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・
スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書»



『スポハラ』根絶に向けた取組み



グッドコーチとして適切に対応するための動画・ワークブックの公開

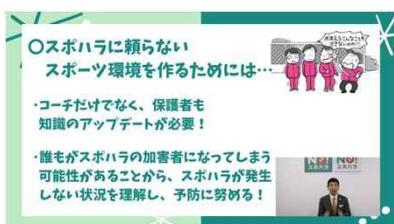


スポーツ現場におけるハラスメント防止動画・情報発信動画の公開

<スポーツ現場におけるハラスメント防止動画>



<「スポハラ」に関する情報発信動画>



ハラスメント防止・啓発セミナーの実施

<令和6（2024）年度の様子（計4会場で実施）>



「NO! スポハラ」活動に関する各種広報資料・動画の公開

<過去開催した研修会等の動画公開>



<ポスター・ロゴ等広報ツール>



アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。

すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。



勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構



Thank you!



協賛企業・団体のご紹介

日本熱源システム株式会社

大津市水道瓦斯工事店協同組合

げんさん
GENSAN BEEF

BAMBA SPORTS

びわ湖ブルーエナジー

JAレーク滋賀

日伸工業

日立システムズ

FUJITSU

Cloudnine
人が人を救う社会を創造する

瀬田商工会

Pure Natural Mineral Water
いわまの甜水

享保元年
支那之船
鳥居元年
元年

TAKENOUCHI GROUP

Biwako Kisen

月の輪自動車教習所

KOUEI HOME
株式会社 高栄ホーム

Otsuka

MM SQUARE
MyMall®

ZTV 株式会社

松田クリーンパック

株式会社大谷設備工業

株式会社竹仁興産

有限会社関西総合商社

私たち、わたSHIGA輝く国スポ大津市開催競技を応援しています。

OTSU CITY

湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会
2025



国スポ会場で

1日たっぷり楽しもう！

国スポは、競技観戦だけじゃない！

大津市の国スポ会場には、“来場して楽しめる”コンテンツをたくさん用意しています。

子どもも一緒に楽しむ！



「OTSU DREAM IT CONTENTS」

大津市で開催するすべての競技会場で、子どもたちの思い出に残る企画を実施！！

「競技紹介」

はじめてでもわかる！！競技の見どころ解説

https://otsu-kokuspo2025.jp/kids_page

きんまいブース（PRブース）

ガイドブックやクーポンを配布！

さらにアンケートに答えると、豪華な
賞品が当たるかも！？



滋賀県内最多 12競技を巡るデジタル
スタンプラリーも！

手づくり のぼり旗

全国から参加する選手のために、
市内の子どもたちが心を込めて製作。
メッセージやイラストは必見！



ふるまいコーナー

大津の銘菓などが無料でもらえる！

ふるまい品のラインナップは要チェック！

※時間・数量限定

“滋賀らしい取組み” 「給水スポット」

水分補給で、暑さをしのごう！

※マイボトル持参にご協力ください

ほかにも、見どころがたくさん！

- ・売店やキッチンカー
- ・花いっぱい運動 などなど…

※会場ごとで、設置の有無が異なります

まちの歓迎装飾

市内を走る京阪電車や駅などを彩り、
大津を訪れる人たちを歓迎！
いくつ見つけられる？

大津市観光キャラクター
おおつ光ルくん



“滋賀らしい取組み” 「給水スポット」

水分補給で、暑さをしのごう！

※マイボトル持参にご協力ください

ほかにも、見どころがたくさん！

- ・売店やキッチンカー
- ・花いっぱい運動 などなど…

※会場ごとで、設置の有無が異なります

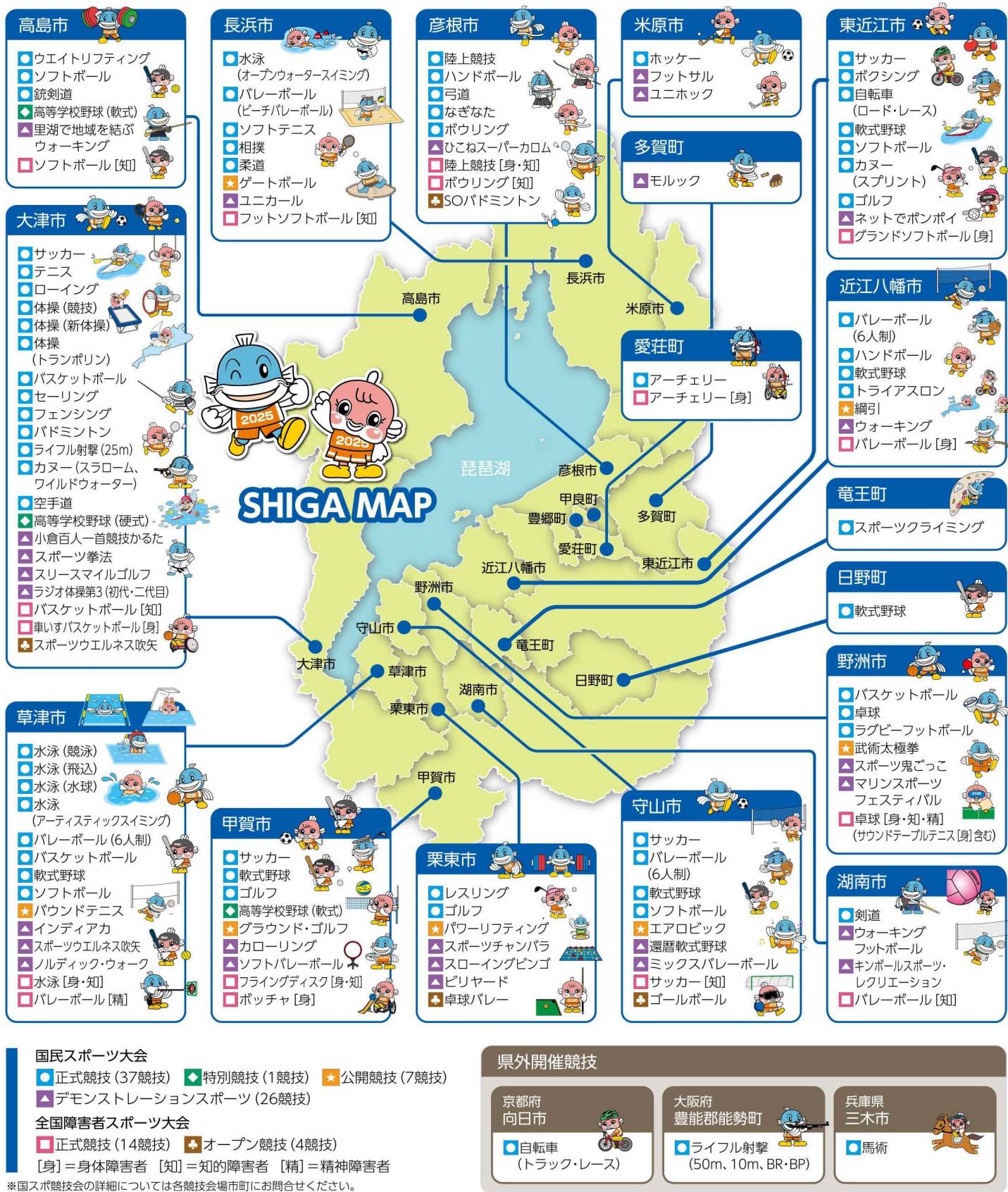
まちの歓迎装飾

市内を走る京阪電車や駅などを彩り、
大津を訪れる人たちを歓迎！
いくつ見つけられる？



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 競技会場地マップ

2025年8月現在



びわこ国体・びわこ大会から44年ぶりの開催!

国スポ実施期間

令和7年 9月28日(日)～10月8日(水) [11日間開催]

国スポ会期前実施競技

令和7年9月6日(土)～9月15日(月)、令和7年9月21日(日)～9月25日(木)

障スポ実施期間

令和7年10月25日(土)～10月27日(月) [3日間開催]

大会公式SNS・HPはコチラから! 滋賀2025

大会PR
動画を公開!

さらなる高みを目指して、日々努力するアスリートの姿を臨場感あふれる競技音と合わせてご覧ください。

Instagram



X



大会HP



●用 紙・責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
●インキ:植物油インキを使用

2024年から国民体育大会(国体)は、国民スポーツ大会(国スポ)に名称変更されました。

湖国の感動 未来へつなぐ

第79回国民スポーツ大会

わたSHIGA輝く国スポ2025

来年は、青森県で第80回国民スポーツ大会が開催だぞい。
また、青森県むつ市で会えたらうれしいのじゃ。



むつ市PRキャラクター
ムツシュー・ムチュラン I世
承認第07005号



大津市観光キャラクター
「おおつ光るくん」

競技記録結果

開設期間
2025年9月1日（月）～12月26日（金）

▼PC・スマホ

<https://kirokukensaku.net/5NS25/index.html> →



▼フィーチャーフォン（ガラケー）

← <http://kirokukensaku.net/5NS25/mob/index.html>

国スポチャンネル

国スポ競技の動画配信を行っています。

※競技によって配信スケジュールが異なります。

ホームページ：<https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会SNSはこちらをチェック！

大津市実行委員会HP：<http://otsu-kokuspo2025.jp/>

X



Instagram



Facebook



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局

滋賀県大津市石場10番53号 TEL：077-528-2919（大会総務課）